令和６年（2024年）度

三重大学教育学部
学校連携活動報告書

一身田・橋北校区連携校園

附属学校園との連携活動

三重大学教育学部
学校連携推進委員会

連携活動報告書　目次

はじめに

第１部　連携活動

一身田・橋北校区連携活動について
活動一覧

附属学校連携活動について
活動一覧

Ⅰ　活動報告
1. 情報教育
2. 理科教育
3. 家政教育
4. 英語教育
5. 保健体育
6. 幼児教育
7. 栗真小学校

第２部　学生の声

Ⅰ 連携活動に参加して
Ⅱ 学生アンケート

学校連携推進委員会メンバー

はじめに

学校連携推進委員会の活動について、昨年度に引き続き、今年度も多くのみなさまからご指導・ご支援を頂きましたことに、心より感謝申し上げます。

三重大学教育学部と一身田・橋北校区連携校園と学部附属学校園との連携活動の成果を、この連携活動報告書という形で発刊させていただくことをたいへん嬉しく思っております。令和 6 年度における連携活動は、一身田・橋北校区連携園においては授業数 46，参加学生数はのべ 678 名、附属校園においては授業数 38，参加学生数はのべ 160 名となりました。この場を借りて、様々な連携活動の取り組みにご協力いただきました一身田・橋北校区の小中学校・園、津市教育員会、学部附属学校園および教育学部のみなさまに厚く御礼申し上げます。なお、連携活動報告書は学部ウェブサイトにて公開させていただいておりますが、この活動内容を、一人でも多くのみなさま方にご覧いただければ幸いに存じます。

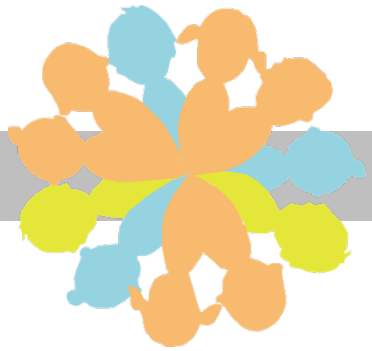
三重大学に隣接する一身田・橋北校区と教育学部との連携協力は、平成 18 年（2006 年）に始まりました。同様に附属学校園についても長期にわたり密な連携活動を展開しており、この活動の意義や必要性を改めて認識いたしております。三重大学教育学部・研究科における教育内容の特色の一つとして、教育実践力の向上を目指すカリキュラム構成があり、教育実践力は、教育現場での体験を通して養成されるものと考えております。そのような理念に基づき展開されている連携活動は、学生にとって貴重な経験であり、大きな意義を持つものといえるでしょう。

最後になりましたが、附属教職支援センター総合支援室分室の事務補佐員の山田志穂さんには、今年度もまた、連携校・園との連携活動に関わる連絡調整や取りまとめをはじめ、報告会での事務作業、本報告書の作成等にあたり、多大なるお仕事をこなしていただきました。御礼申し上げます。

連携活動のさらなら発展に向けて、今後とも、連携活動に関しまして、みなさま方からご理解とお力添えを賜りますなら、たいへんありがたく存じます。

三重大学教育学部学校連携推進委員会
委員長　瀬戸美奈子

第1部
連携活動



2024（令和6）年度　一身田・橋北校区との連携活動実施一覧表

依頼No.	該当（希望）コース等	担当予定大学教員	附属校園名 担当教員	教科・領域等	内容	実施希望日・要望等
1	理科教育	平山大輔	栗真小学校 中田・寺下	生活 １・２年生	秋の木や木の実見つけ	11月25日 学生5名が参加
2	理科教育	國仲寛人	一身田小学校 坂口　敏満	理科 ３年生２クラス	「電気で明かりをつけよう」 学習支援,授業補助	2月10日　学生2名が参加
3	理科教育	平山大輔	南立誠小学校 小林	生活科2年生 ２クラス	秋見つけの補助 （秋の生物を見つけよう）	11月25日 学生6名が参加
4	理科教育	栗原行人	西が丘小学校 小林　博	理科６年生 ４クラス	郷土の化石の観察	2月10日　学生3名が参加
5	理科教育	平山大輔	北立誠小学校 小椋　陽平	理科５年生 ２クラス	理科出前科学教室	11月25日 学生7名が参加
6	家政教育	平島　円	白塚小学校 松本　弦	家庭 5年２クラス	ミシンの使い方補助	2月10日　学生4名が参加
7	家政教育	平島　円	一身田小学校 永井　真珠子	家庭科 ５年生３クラス	裁縫実習,調理実習の補助	9月11･13･1･19･20･25･27日　10月1･3･17･18日 12月5･6･11日　1月16･23･24･29･30日　2月5･6･7･12･13･19･21･26･27日
8	家政教育	平島　円	一身田小学校 岸本　美智子	家庭科 ６年生３クラス	裁縫実習,調理実習の補助	10月24・29日
9	家政教育	平島　円	南立誠小学校 岡崎・瀬田	家庭５年生 ２クラス	エプロン制作の補助	1月27日，2月5日
１０	家政教育	平島　円	一身田中学校 小村　理衣	家庭2年生 5クラス	ニジマスの調理	11月18・19・21日
１１	家政教育	平島　円	橋北中学校 世古口　結衣	家庭 １年	裁縫実習	9月9･10･17･18･19･30日,10月1日
１２	家政教育	村田晋太朗 平島　円 横山真智子 瀧日滋野	橋北中学校 世古口　結衣	家庭 １年	教職実践演習における授業参観	12月10日
１３	家政教育	瀧日滋野	南立誠幼稚園 村井　知枝美	食育	食育に関する実践	1月21日
１４	数学教育	小林 和志 田中 伸明	一身田小学校 東出祥子（教頭）	各教科・各学年	学習支援,授業補助	6月～12月末
１５	数学教育	玉城 政和	白塚小学校 鈴木　宏尚	各教科・各学年	学習支援,授業補助	6月～12月末
１６	数学教育	田中 伸明	白塚小学校 鈴木　雄地	算数・３年	授業研究（事前検討会・研究授業・事後検討会）	6月7日，6月19日
１７	数学教育	田中 伸明	白塚小学校 鈴木　雄地	算数・５年	授業研究（事前検討会・研究授業・事後検討会）	10月30日，11月13日
１８	数学教育	川向 洋之	栗真小学校 立藤真弓（教頭）	各教科・各学年	学習支援,授業補助	6月～12月末
１９	数学教育	肥田野久二男	北立誠小学校 西村まなみ（教頭）	各教科・各学年	学習支援,授業補助	6月～12月末
２０	数学教育	森山 貴之	南立誠小学校 東出　健一（教頭）	各教科・各学年	学習支援,授業補助	6月～12月末
２１	数学教育	田中伸明	一身田中学校 篠田　敏史	数学 １・２・３年	学習支援・授業補助	6月～12月末
２２	数学教育	田中伸明	橋北中学校 工藤　彩	数学 １・２・３年	学習支援・授業補助	6月～12月末
２３	英語教育	金子　淳	一身田小学校 坂口　敏満	外国語活動 ３年生２クラス	活動の補助	10月,1月
２４	英語教育	荒尾浩子	北立誠小学校 谷中	英語６年生３クラス	英語教育「学生によるフレンドシップ」	11月
２５	幼児教育	水津幸恵	南立誠幼稚園 前川　佳織	未就園児の会	未就園児の会の計画・実施	5月23日,6月6日,10月24日,11月7日,11月21日,12月5日,12月19日,1月30日
２６	情報教育	山守一徳	一身田小学校 堀　陽介	生活科 １年生２クラス	タブレットの使い方 ScrachJrを使って繰り返し処理プログラミング	10月3日
２７	情報教育	山守一徳	一身田小学校 宮本　惠子	総合 ２年生２クラス	プログラミング体験 ScrachJrを使ってイベント処理プログラミング	10月17日
２８	情報教育	山守一徳	一身田小学校 坂口　敏満	総合 ３年生２クラス	プログラミング体験 ScrachJrを使ってメッセージ通信プログラミング	10月23日
２９	情報教育	山守一徳	一身田小学校 古市　美紀子	総合 ４年生２クラス	プログラミング体験 ルーローの三角形を描くScratchプログラミング	11月27日
３０	情報教育	山守一徳	西が丘小学校 臼井　裕梨	算数５年生 ４クラス	プログラミングの基礎 ルーローの三角形を描くScratchプログラミング	11月28日，12月4日
３１	技術・ものづくり	松岡守	橋北中学校 山岸　望	技術２年11名	技術学ゼミナールⅡ（電気）	9月10日
３２	社会科教育	宮岡邦任	栗真小学校 林	社会	5年生　防災の授業の補助	12月5日　学生2名が参加
３３	社会科教育	秋元ひろと	一身田小学校 坂口　敏満	総合的な学習の時間	3年生 班に分かれて実施された学校周辺の町探検の補助	11月21日　学生3名が参加
３４	国語教育	守田庸一	北立誠小学校 森	教職員	国語教育「国語の指導について」	6月21日
３５	国語教育	守田庸一	北立誠小学校 森	教職員	国語教育「全体の研究授業について」	10月8日，11月22日
３６	国語教育	守田庸一	橋北中学校 末次　公祠 奥田　幸伸	総合的な学習 ２年５クラス	大学への進学率が高い今,キャリア教育の一環として,これまでの職場体験学習だけでなく,大学での模擬授業等を体験することで,学びへ向かう意欲の向上を育みたい。また,総合的な学習を通して,探究的な学びの展開を進めている。子どもたちが探究すること,研究することとは何かを知り,実際の研究を少しでも体験できる機会を与えていただければと考えている。	2月12日
３７	音楽教育	小畑真梨子	南立誠幼稚園 前川　佳織	４,５歳混合クラス 12名	野菜楽器であそぼう	7月16日，11月11日
３８	音楽教育	上ノ坊航也	栗真小学校 林	音楽	フェスティバル発表	11月5日,11月13日　学生3名が参加
３９	音楽教育	森川孝太朗	一身田中学校 古市　和代	音楽3年生 5クラス	コーラスコンクールに向けて各学級の合唱指導	9月5日～10月1日，10月16日
４０	音楽教育	上ノ坊航也	一身田小学校 永井　真珠子	音楽科 3年生1組	「日本と世界の音楽を楽しもう」　研究授業	10月23日
４１	保健体育	加納　岳拓	南立誠幼稚園 前川　佳織	４、５歳混合クラス １１名	体育/体幹を鍛える遊び	10月25日
４２	保健体育	水藤　弘吏	一身田小学校 堀　陽介	体育科 １年生２クラスを中心に全学年	水泳指導支援、授業補助	6月20日,24日,26日　7月2日,4日　学生20名参加
４３	保健体育	冨樫　健二	北立誠小学校 小椋	全学年	体力テストの補助	5月29日～5/31日　学生14名参加
４４	保健体育	水藤　弘吏	南立誠小学校 黒田	水泳４年生 ２クラス	水泳指導の補助	6月17日,20日　学生20名程度参加
４５	保健体育	國仲寛人 岡野　昇 加納　岳拓	西が丘小学校 横田　幸大	理科４年生 ４クラス	ｐｈＥＴの学習（電気のはたらき）	6月24日
４６	保健体育	後藤　洋子 岡野　昇 加納　岳拓	一身田中学校 伊藤　駿太	保健体育2年生 5クラス	体つくりの授業支援（ラート）	9月13日～23日

2024（令和6）年度　附属学校園との連携活動実施一覧表

ョによる研究支援」・C型「学部教員からの提案・希望による連携」・D型「上記以外の内容・形態」

依頼 No.	領域 No.	該当（希望） コース等	担当予定 大学教員	附属校園名 担当教員	教科・領域等	内容	実施希望日・要望等
1	D	家政教育	瀧日　滋野	附属幼稚園 杉澤　久美子	年長	カレーパーティーの支援を通した触れ合い	6月8日
2	B	家政教育	村田晋太朗 瀧日滋野	附属小学校 堀切紋子	家庭科	研究授業に向けて，授業者が考えた内容についてのアドバイス，参考資料の提供など	学期に1回程度
3	D	家政教育	平島　円	附属小学校 堀切紋子	家庭科	小学生料理教室の指導	10月14日
4	C	家政教育	横山真智子	附属小学校 堀切紋子	家庭科	大麻布を用いたランチョンマットの製作	11月6日，13日，20日，27日，12月4日
5	B	家政教育	村田晋太朗 瀧日滋野	附属中学校 林　歌織 附属小学校 堀切　紋子		小中学校家庭科に関する共同研究	11月15日，12月26日，1月15日
6	B	家政教育	村田晋太朗 平島　円 瀧日滋野 横山真智子	附属中学校 林　歌織 附属小学校 堀切　紋子		教職実践演習での講話	1月15日，1月22日
7	C	家政教育	横山真智子	附属中学校 林　歌織	家庭科	高島ちぢみのTシャツ製作・染色	10月11日，17日，11月5日，7日，19日
8	B	家政教育	村田晋太朗	附属中学校 研究部	総合	本校研究，「総合的な学習の時間」の探究学習へのアドバイス等	通年
9	A	数学教育	田中 伸明	附属中学校 数学科	第二学年 校外学習・講義体験	リサイクルマークの数理	11月6日
10	A	数学教育	川向 洋之	附属中学校 数学科	第一学年 出前授業	石取りゲームの必勝法	2月13日
11	A	数学教育	森山 貴之	附属中学校 数学科	第一学年 出前授業	球面の幾何学	2月13日
12	A	数学教育	肥田野久二男	附属中学校 数学科	第一学年 出前授業	水に水滴を垂らすとどうなる？	2月13日
13	A	数学教育	中西 正治	附属中学校 数学科	第一学年 出前授業	数楽しよう！	2月13日
14	A	理科教育	伊藤儀成	附属幼稚園 杉澤久美子	年長クラス	「よるのようちえん」での星を見る会	7月20日　学生5名が参加
15	B	理科教育	平山大輔	附属小学校 前田昌志	理科	ドローンとアクションカメラを活用した他支店型自然教育プログラムの開発	科研費のプロジェクト。研究は随時実施。会議を5月28日，8月20日に実施。制作教材の確認等を12月6日に実施。その他，随時実施。
16	C	理科教育	伊藤儀成	附属小学校 岡賢一	理科 ５年生	５年生のキャンプでの天体観測・望遠鏡での観察と星空観測	10月17日　学生4名が参加
17	C	理科教育	栗原行人	附属中学校 津田智康	理科 2年生	地質図ナビを活用した地学分野の授業案作成と実践	12月13日，12月16日，学生1名が参加
18	D	幼児教育	富田昌平	附属幼稚園 杉澤久美子	未就園児	未就園児コアラの会の企画及び実施	10月3日，17日，11月14日，12月19日，1月16日，30日，2月6日　学生11名が参加
19	D	幼児教育	富田昌平	附属幼稚園 早川　ひろみ	全学年	よるのようちえんの遊びのコーナーの企画及び実施	7月20日　学生11名が参加
20	D	幼児教育	吉田真理子	附属幼稚園 杉澤久美子	3・4・5歳児	学生による人形劇の上演	7月20日，1月22日　学生12名が参加
21	A	幼児教育	水津幸恵	附属幼稚園 早川　ひろみ	年少	親子活動「親子で触れ合う」ことを目的とした活動	6月13日，学生11名が参加
22	A	幼児教育	富田昌平	附属特別支援学校 下地　栄津子	生活単元学習 小学部全体	絵本の読み聞かせ,手遊び	11月13日，学生9名が参加
23	A	技術・ものづくり	中西康雅	附属特別支援学校 田中　寛之	卒業制作	2月5日に実施予定	2月5日
24		技術・ものづくり	松本金矢	附属中学校 山城　卓	技術	教職実践演習	12月2日，12月4日
25	A	国語教育	林　朝子	附属幼稚園 辻　彰士	年長	毛筆を使い，絵や字をかく活動	1月17日
26	A	国語教育	服部明子	附属小学校 井上大	外国語・総合 5年生	台湾について知ろう	10月29日
27	B	国語教育	守田 庸一	附属小学校	国語科	主体的・対話的で深い学びを実現する国語授業の共同開発	国語科の研究授業日とその事前事後，および11/30公開研究会を中心に実施
28	B	国語教育	守田 庸一	附属小学校 長井直己	国語科	小学校低学年における読書教材の授業デザインの共同開発	2-3月に実施
29	C	国語教育	余　健	附属中学校 楠本　涼子	国語科　3年生	三重県の方言にかかわる授業 他校とZoomをつないでの交流（紀宝町立矢渕中学校）	矢渕中学校・附属中学校（12月9日）
30	A	国語教育	余　健 守田庸一 松本昭彦	附属中学校 国語科	全学年	各専門領域の授業	（松本）2月21日 （守田）2-3月
31	A	国語教育	守田庸一	附属特別支援学校 田中　寛之	国語 中学部全体	ブックトークや本の読み聞かせ	2学期，3学期
32	A	国語教育	林　朝子	附属特別支援学校 山原　幸浩	国語 高等部1，2，3年	書道体験	1月24日
33	D	音楽教育	上ノ坊航也	附属中学校 西本　彩	音楽科　全学年	附中のハーモニーでのコンクール審査及び講評など	10月31日
34	A	保健体育	後藤洋子	附属幼稚園 辻　彰士	年長	「親子で体を動かす」をテーマにした親子活動	10月25日
35	D	保健体育	岡野　昇 加納 岳拓	附属幼稚園 湯田　綾乃	年中	年中組を対象にした親子活動	11月20日
36	A・B	保健体育	後藤洋子	附属幼稚園 早川　ひろみ		幼児の生き生きとした表現ややってみたいを引き出す活動・教材を考える。	年間通して実施
37	B	保健体育	岡野　昇 加納 岳拓	附属小学校	体育科	主体的・対話的で深い学びを実現する体育授業の共同開発	年間通して実施
38	D	保健体育	岡野　昇 加納 岳拓	附属中学校 鈴木　将弘	保健体育	公開研究会に向けた授業内容の助言と公開日当日の助言者	11月11日

1．情報教育

本年度、情報教育講座で実施した取り組みは以下の通りである。

1. 一身田小学校（対象：1 年生 1 限×2 クラス）における「繰り返し処理プログラミング」の授業・演習
2. 一身田小学校（対象：2 年生 1 限×2 クラス）における「イベント処理プログラミング」の授業・演習
3. 一身田小学校（対象：3 年生 1 限×2 クラス）における「メッセージ通信プログラミング」の授業・演習
4. 一身田小学校（対象：4 年生 1 限×2 クラス）における「ルーローの三角形を描くプログラミング」の授業・演習
5. 西が丘小学校（対象：5 年生 1 限×4 クラス）における「ルーローの三角形を描くプログラミング」の授業・演習

以下に担当した大学教員による活動報告を示す。

1. 一身田小学校（対象：1 年生 1 限×2 クラス）における「繰り返し処理プログラミング」の授業・演習

（山守一徳）

【目的】　2024 年 10 月 3 日 2・3 限目に 1 年生の 2 クラス 58 名を対象に、プログラミングの第一歩を知ることを目的とし、ScrachJr を使って、キャラクターを移動させるプログラミングの授業実践を行った。

【概要と成果，課題】　図 1 のように、右に 5 行き、上にジャンプする動きを 4 回繰り返すプログラムを作らせた。３つキャラクターを並べ同じ動きをさせた。最初のキャラクターは、先生の画面を見ながら、一緒に操作してプログラムを作り、2 つ目のキャラクターは、好きなキャラクターを選ばせて、同じプログラムを児童に自分で作らせた。さらに時間が余ってくる児童には、3 つ目のキャラクターをお絵描き機能で作らせて、同じプログラムを作らせた。

右に 5 行き、上にジャンプする動きを 4 回繰り返させたが、児童はマリオみたいと言って、動かすことを楽しんでいた。繰り返し処理は、

図 1　繰り返し処理の動作画面例

プログラムの基本であるが、簡単に楽しむことから始められて、全児童がプログラミングを好きになってくれると思われる。

３つ目のキャラクターを描かせた時、お絵描き作業に入るとキャラクターと思えない自由奔放な絵を描き始めたので、授業でお絵描きさせるのは避けた方が良いと思われる。1 年生相手にタブレットを使ったお絵描きをさせる授業が

よく行われているが、授業時間内でお絵描きを完成させるのに苦労をしている。それよりは、図１のようなプログラムをさせた方が、完成への目標が明確となり、達成感が与えられて良いと思う。

実施日	時間	場所	学生
10 月 3 日(木)	9:40-10:25	一身田小学校	なし
10 月 3 日(木))	10:45-11:30	一身田小学校	なし

2. 一身田小学校(対象:2 年生 1 限×2 クラス)における「イベント処理プログラミング」の授業・演習

(山守一徳)

【目的】　10 月 17 日 2・3 限目に 2 年生の 2 クラス 71 名を対象にプログラミングの経験を増やすことを目的に、イベント処理を題材にし、ScratchJr 使って、キャラクターがサッカーゴールに向かってボールを蹴るプログラミングの授業実践を行った。

【概要と成果，課題】　図 2 のように、スタート時に猫が 1 右に動き、ボールは 1 秒待って 10 右に動くことで、猫が蹴ったように見せた。サッカーゴールがボールに触れたら、「ゴール！」と吹き出し表示し、ボールがサッカーゴールに触れたら 1 右に行き 3 左に行くようにした。

物に触れたら動きが変わるというイベント処理を経験させようとし、サッカーゴールがボールに触れたらという条件と、ボールがサッカーゴールに触れたらという条件を使用した。ボールの動きが、サッカーゴールの中に入り、その後、サッカーゴールから左に出て来るという動きをすることで、ゴールと発するのが 1 回だけにしている。ボールがサッカーゴールに触れたままになるのを防ぐため、最後にボールをゴールから左へ出している。

ボールの動きの進む距離を正しく設定しないと、ボールがサッカーゴールの中で入ったり来たりするが、その動きが何故発生するのかを児童に考えさせた。具体的には、ボールがサッカーゴールに触れた時、１右に行き１左に行くように設定するとどうなるかを考えさせ、数名が理解できていた。1 左に行くだけではサッカーゴールに触れた状態から抜け出せず、ボールが再び右に行き左に行く動作を繰り返してしまうのである。

(a)動作画面とボールのプログラム

(b)猫のプログラム

(c)サッカーゴールのプログラム

図 2　イベント処理の動作画面例

手を上げて答えてくれる児童もいたが、多く

の児童は正しい動きにさせることに一生懸命で、答えを聞いて理解できたか不明である。おそらくプログラムの正解を提示しているので、プログラミングできているが、動作説明だけして最初から自分でプログラミングさせるのは２年生には難しいようである。しかし、プログラミングは経験して身に付けていくと良いので、正解のプログラムを提示して作らせるのは意味があると思われる。

実施日	時間	場所	学生
10 月 17 日(木)	9:40-10:25	一身田小学校	なし
10 月 17 日(木)	10:45-11:30	一身田小学校	なし

3. 一身田小学校(対象:3 年生 1 限×2 クラス)における「メッセージ通信プログラミング」の授業・演習

(山守一徳)

【目的】　10 月 23 日 2・3 限目に 3 年生 2 クラス 61 名を対象に、少し高度なプログラムを経験させることを目的として、メッセージ通信を題材にし、ScratchJr 使って、2 人のキャラクターがサッカーボールをパスし合うプログラミングの授業実践を行った。

【概要と成果，課題】　図 3 のように、ボールがキャラクターに触れたら向きを変えて動き、ボールが行き来するようにした。

キャラクターがボールに触れたらメッセージを発信するように、ボールはメッセージが届いたら向きを変えるようにすることで、ボールを行き来させている。

最初、メッセージの手紙の色を自由に選ばせてみたが、メッセージの手紙の色を先生と同じにした方が児童のプログラムミスが減ると思われる。また、右側のキャラクターを児童に自由に選ばせたが、猫を選ぶ児童が多く、左側のキャラクターとは同じキャラクターを選ばせない方が混乱が減る。また、2 つのキャラクターとボールの初期位置を先生画面と同じようにしないとボールが行き来しないので注意が必要である。うまく動かない児童の多くは、それらの初期位置を変えることで直すことができた。

(a)動作画面とボールのプログラム

(b)右のキャラクターのプログラム

(c)左のキャラクターのプログラム

図 3 メッセージ通信の動作画面例

図 3 のプログラムで赤色の手紙のメッセージのブロックを導入するのは、プログラミング作

業の最後にした。赤色の手紙のメッセージのブロックでボールを止めるのは、無くてもボールが行き来し始めるからである。ただし、無いとボールを蹴り返したように見えず、ボールが進行方向へ継続してしまい、ボールの動きが変に見える。児童に理解させるために、紫色の手紙のメッセージのブロックの作り込みから始め、徐々に動かして行くことでメッセージのブロックの動きが理解できたと思われる。

メッセージ通信は、少し高度なプログラムであるが、ScratchJr に導入されていることから、3 年生に使わせても良い機能だと思う。プログラミングは経験して気付かせることが大事であると思う。

実施日	時間	場所	学生
10 月 23 日(水)	9:40-10:25	一身田小学校	なし
10 月 23 日(水)	10:45-11:30	一身田小学校	なし

4. 一身田小学校(対象:4 年生 1 限×2 クラス)における「ルーローの三角形を描くプログラミング」の授業・演習

(山守一徳)

【目的】　11 月 27 日 2・3 限目に 4 年生 2 クラス 61 名を対象に、プログラミングの構築の仕方を理解させることを目的として、Scratch 使って、ルーローの三角形を描くプログラミングの授業実践を行った。

【概要と成果，課題】　図 4 に描かせたルーローの三角形を示す。ルーローの三角形は、正三角形が基礎になっており、三角形の各辺が円弧になっている図形である。円弧の半径は、三角形の一片であり、円弧の中心は、三角形の頂点に位置している。ルーローの三角形を床上で転がすと高さ一定になるため、定幅図形とも呼ばれる。

正三角形や円弧を学習している児童には理解しやすく興味を持つ図形であると思われるため、Scratch で描かせてみた。

最初は、正三角形を図 5(a)のプログラムで描かせ、この時は、先生の画面を見ながら一緒に作らせた。プログラムを載せた資料も配

(a)完成図　(b)挑戦図 1　(c)挑戦図 2

図 4　描かせたルーローの三角形

布した。図 5 は資料の中に載せたプログラムである。正三角形を描いた後に、挑戦図 1、挑戦図 2 を描かせ、ヒントを参考にさせて完成図のプログラムを児童に作らせてみた。

多くの児童は、30 度時計回りに傾いたルーローの三角形を描いており、円弧の書き始めに 30 度反時計回りに回転させてから描き始めることを理解するのに時間が掛かった。完成図の正三角形を描いていない、3 つ円弧だけ描くプログラムをヒントに挙げていたため、そのまま描いて完成したと思う児童が多かった。

4 年生になると、児童の助け合いの精神が発　　の児童が完成させることができていた。動し、できた児童が周りを教えていき、多く

(a)正三角形描画　　(b)挑戦図 1 用ヒント (c)挑戦図 2 用ヒント (d)完成図用ヒント

図 5　作らせたプログラムとヒント

実施日	時間	場所	学生
11 月 27 日(水)	9:40-10:25	一身田小学校	なし
11 月 27 日(水)	10:45-11:30	一身田小学校	なし

5. 西が丘小学校（対象:5 年生 1 限×4 クラス）における「ルーローの三角形を描くプログラミング」の授業・演習

（山守一徳）

【目的】　11 月 28 日 2・3 限目と 12 月 4 日 2・3 限目に 4 クラス 112 名対象に、プログラミングの構築の仕方を理解させることを目的として、Scratch 使って、ルーローの三角形を描くプログラミングの授業実践を行った。

【概要と成果，課題】　図 4 と図 5 で示す配布資料は、一身田小学校 4 年生向けに実践した時と同じである。授業の進め方もほぼ同じであるが、最後の完成図は、30 度時計回りに傾いたルーローの三角形にならないように、最初から念を押して、考えさせた。

5 年生なので、4 年生と比べると、プログラムのブロック操作も慣れており、スムーズに作成することができていた。

やはり完成した児童が、周りの児童を教えることができ、多くの児童が完成できていた。時間の余った児童には、星型の図形を描かせるとか、違う課題も与えた。

実施日	時間	場所	学生
11 月 28 日(木)	9:35-10:20	西が丘小学校	なし
11 月 28 日(木)	10:40-11:25	西が丘小学校	なし
12 月 4 日(水)	9:35-10:20	西が丘小学校	なし
12 月 4 日(水)	10:40-11:25	西が丘小学校	なし

２．理科教育講座

本年度、理科教育講座で実施した取り組みは以下の通りである。
１．西が丘小学校における「郷土の化石の観察」
２．理科教育コース１年生による北立誠小学校での出前科学教室

以下に担当した大学教員による活動報告を示す。

１．西が丘小学校における「郷土の化石の観察」

（栗原行人）

【目的】小学校６年理科「土地のつくりと変化」の単元の中で、郷土の化石を知ることを目的として津市西部に分布する一志層群から産出した貝化石を含む岩石（泥岩コンクリーション）を観察した。

【概要と成果】2024 年 11 月 22 日に西が丘小学校６年生４クラスを対象として化石観察の授業を行った。まず、津市白山町で採取した 1800～1700 万年前の一志層群産の貝化石を含む岩石を班ごとに観察し、気がついたことをワークシートに記入し発表してもらった。その後、化石がどのような場所で見つかるか、どうして海からはなれたところから貝の化石が見つかるのかを説明した。最後に感想をワークシートに記入してもらったところ、「初めて生で化石を見れてよかった」とか「化石が入っている石は丸い石なのが特徴だとわかった」や「博物館に行って，もっとたくさんの化石を見てみたいと思った」といったコメントが得られた。

授業実施については、最初のクラスを栗原が担当し、その後の３クラスを栗原研究室の３年生３名が担当した。化石観察の時間では全員でどのような点に着目したらよいかを指導した。学生が教育実習以外に現場で授業をする機会はほとんどないので、教育実習で得た経験を活かす良い機会となった。

【学生の感想】学生１（MO）実習は中学校で行ったため、小学生相手に授業をすることに不安を感じていたが、子どもらしい面白い意見がたくさんあり、楽しく授業をすることができた。授業実践で化石を用いた観察を行うことで、小学生の授業への意欲の高まりを感じた。実際、「化石を初めて見た！」という感動を与えたり、「これはなんの化石だろう？」という疑問を持たせたりすることができたと感じる。生徒にとって、理科ではこのような体験をすることが非常に重要であるということを改めて学ぶことができた。

学生２（SI）西が丘小学校の６年生の子供たちはみんな素直で知らないことに対するリアクションも大きかったので授業してとてもやりがいを感じました。また、化石観察の時も積極的に観察し、興味を示す子供が多いように感じました。そのようなリアクションを多くみることができると教師側としても授業する気持ちが大きくなると感じました。

2. 理科教育コース１年生による北立誠小学校での出前科学教室

（理科教育講座全教員）

【目的】

理科教育コース１年生が小学生を対象とした科学啓発活動（科学教室）を企画・実践し、児童との関わりを通じて科学の面白さを伝える能力を養うことを目的とし、「キャリア教育入門」のなかで北立誠小学校への出前科学教室を開催した。

【概要と成果、課題】

対象は北立誠小学校５年生（全クラス）とし、事前の準備も含め、以下の日程で実施した。

・7 月 24 日：理科１年生へのガイダンス
・11 月 20 日：中間報告会
・12 月 9 日：出前科学教室実施
・1 月 29 日：事後検討会（振り返り）

理科教育コース１年生 19 名が、物理・化学・生物・地学の４つのグループに分かれ、ブースを出展することとした。児童は４つの班に分かれ、５時限目と６時限目で物理・化学・生物・地学の全分野のブースを体験できるものとし、そのため各ブースでの体験学習内容は 20 分以内で必ず終わるものとした。7 月のガイダンス後は基本的に各分野の大学教員のもとでグループごとに予備実験等の準備を重ねた。11 月の中間報告会では理科全員でブース内容の検討と改善を行った。当日の進行は基本的に学生主体で行った。1 月に事後検討会（振り返り）を行い、良かった点や反省点、次年度の１年生に申し送ることなどを共有し、一連の活動を終えた。

以下、各グループの振り返りを示す。

物理 G: 音を見よう

概要：物理分野では、ボウルに園芸用シートを張ったものと塩を使い、５グループに分かれて児童たちに声を出してもらうことで音による振動を復習してもらいました。

この題材の目的としては、普段目に見えない音の振動を実際に塩を動かすという形で確認してもらうことで音の性質を復習してもらうというものでした。また、ワークシートを用いることで、児童たちにいろいろな声を出させて音によって振動の仕方が違うというのを自分たちで気づいてもらうという狙いもありました。

当日の流れ

1. 児童を５班に分けた後に全体で音の性質について復習を行う
2. 全体の前で演示実験を行う
3. 各班に分かれてワークシートの説明を行う
4. 園芸用シートの張られたボウルに塩をまいてもらう
5. ボウルに向かって声を出して動きを見てもらう
6. 各班話し合いを行ってワークシートを埋めてもらう

児童の感想

・声の高さによって塩がいろいろな模様にかわるということを楽しく学べた
・模様が変わるのは、声がシートを振動させているからと知った。
・音の振動で塩が震えていて、音は振動で動いていることがわかった。
・音が大きいと動いて、音が小さいとあまり動かないことが分かった。
・全て楽しかった。日常で出来るような実験だったので、家族に実演できるから良い学習になった。すごく楽しかった。
・声の大きさや高さで形が変わったり、人によって形が違うのがおもしろかった。自分の知らないことでも分かりやすく説明してくれたから楽しかった。

学生の感想

学生 1(MM)今回の出前授業を通して、北立誠小学校のみなさんの探究心の高さを感じました。「なぜこの現象が起きるのか？」、「この場合はどうなるのだろう？」という純粋な疑問を解き明かすべく検証しているみなさんの姿は、理科教員を目指す私にとっても得るものがありました。

学生 2(HH)今回の出前科学教室を通して小学生の探求心の強さと行動力の高さに驚きました。実験の際にこちらが何も言わなくても「こうしたらどうなる？」と疑問を持って進んで実験を行っていました。思っていたよりも積極的でまとめもすんなり進んだのでサポートに回ることが出来て小学生主体で進行出来て良かったです。

学生 3(HA) 「実験の条件を変えてみるとどのような結果になるのか」を考え、様々な条件で実験を行うなど、疑問に思ったことをすぐに自分の力で解決しようとする姿を見て、子供たちの疑問に対する行動力に驚きました。また、大きな声を出せない子、大きな音が苦手な子などへの配慮が難しいことを実感し、教員志望の私にとって授業の配慮を深く考える大切さを学べた良い体験となりました。

学生４(RT)今回の出前授業を通して、北立誠小学校のみなさんの探究心の高さを感じました。「なぜこの現象が起きるのか？」、「この場合はどうなるのだろう？」という純粋な疑問を解き明かすべく検証しているみなさんの姿は、理科教員を目指す私にとっても得るものがありました。好奇心旺盛な子どもたちがより探求できるように、授業をまとめる力、あらゆる事態を想定する力をつけていきたいです。

学生５(KF)児童たちが実験に夢中になり、自ら積極的に声を出して何度も試している様子が印象的でした。夢中になって取り組む姿や、自分の声で模様が変わるのを見て驚く瞬間があり、そうした反応を間近で見られたのがとても楽しかったです。私自身も一緒に試してみたり、子どもたちの発見を聞いたりする中で、実験を通して自分で試し気づくことの楽しさを改めて感じることができました。

化学 G: 電池の仕組み–銅・アルミ板電池

概要：化学分野では、銅板とアルミ板を使って、児童たちに簡易的な電池を作ってもらうことで電池についての仕組みを理解してもらった。身近な材料で電池を実際に作ってみることで化学に感じている複雑そうだというイメージを払拭し、これから学んでいく化学に親しみを感じてほしいと考えた。

当日の流れ

1. 電池の電流が流れる仕組みを紙芝居形式で説明
2. 児童たちに５つのグループに分かれてもらう
3. 児童たちに銅板とアルミ板の間に食塩に浸したキッチンペーパーをはさんでもらう
4. 作ってもらったものを組み合わせて導線につなぎ LED ライトが光ることを確かめる
5. 直列や並列つなぎをして LED ライトの強さの違いを確かめる(今回作った電池では明かりの違いが分かりづらかったので乾電池を用いた)

実験内容：銅板、飽和食塩水に浸したキッチンペーパー、アルミ板の順番に並べたものを６個つなぎ合わせることで簡易の電池を作った。

実験材料：銅板・アルミ板・キッチンペーパー・導線・飽和食塩水・LED ライト

児童の感想

・銅とアルミニウムを交互に挟んで電気がついて、銅とアルミの間に塩水をつけた布の間に入れることで電気がつくという不思議が面白かった

・.電池は銅とアルミの間に塩水をつけた水をはさむと弱い電気の力になるというのは不思議だった。自分で乾電池を作ってみたいと思った。

・アルミと銅の板に、食塩水を含ませた紙だけで、LED が光るのが不思議に思った。十円玉と一円玉でもできると思った。

・家にあるもので、かんたんにできるので、ためしてみたいと思った。どうアルミと水(とおの)、紙(とおすの)で、光がついてすごかった。でんきなどのしくみも学べて良かった。

・化学のことについていろいろ知ることができた。化学で銀と銅と塩水で電気が光るからひなん所などでつかえると思った。

学生の感想

学生１ (RI)実験中、１回で光らなかった際にこうしてみたら光るのではないかなどの意見をくれる子がいて実験に積極的に参加してくれたことが印象的だった。実験がうまくいかなかったときも『どうすればつくようになるかな』など一緒に考える状況を作ることでより学びを深めることができ、問いかけ次

第では失敗もカバーできるのではないかと感じた。
学生２（TO）電子の話をして、生徒たちには難しいかなと思ったけど、実験も実際すごく楽しんでくれたみたいでよかったです。でもいちばんうれしかったのは金属はなんで電子があるのかと疑問を持ってくれていたことにすごくありがたいと思いました。こうやって理科に興味をもって探求してくれるこの子たちの将来がすごく楽しみです。
学生３（YO）電池のしくみについての説明を紙芝居で行いましたが、その際、一方的に説明してしまうことで小学生たちが退屈してしまうんじゃないかと不安でしたが、小学生たちは紙芝居一枚一枚に反応してくれて、楽しんで聞いてくれていた様子だったので安心しました。自分としてもとても貴重な経験となり、楽しく行うことができてよかったです。
学生４（SW）子どもたちに実験の仕方や目的をどう説明するか不安でしたが、思っていたよりも小学生が積極的に行動してくれて、安心して教えることができました。仕組みを説明する紙芝居は、小学生へは簡単に説明することが難しいと思っていましたが、小学生たちの反応がよく成功したのではないかと思いました。
学生５（KW）小学生にとっては少し難しい内容を予習することになるので、興味を持って聞いてもらえるか、そして理解してもらえるか不安でしたが、内容をきちんと知ってくれただけでなく「これはどうなんだろう？」「どうしてこうなるんだろう？」と気になったことを質問してくれたことが嬉しかったです。もし機会があれば、次はもっと小学生の好奇心に応えられるような工夫をしたいと思いました。

生物Ｇ：種子の冒険

概要：生物分野では、植物の種子の中でも、落下の様子に特徴があるものを、2点を学生が、4点を児童自身が落下させ、それぞれの様子を観察してもらった。この題材にした目的は、身近なものである植物の中に、児童が知っているものとは異なる生態をもつ植物があることを示すことで、身近であるがゆえに薄れてしまう関心を引くことと、生物には多様な生態があるということに気がついてもらうということにあった。また、ただ話を聞くだけではなく実際に体験してもらうことで、自分で考え、検証するという経験をしてもらうという狙いもあった。

当日の流れ

1.植物のイメージについて聞く。
2.　アルソミトラとフタバガキの種子が飛ぶ様子を見せる。
3.　種子の形で動く植物があることを元に導入を進める。
4.種子の実物を見せ、その植物の概要と観察の手順（種子を投げ上げ、落下の様子を観察すること）を説明する。
5.子どもたちに観察を行ってもらう。
6.子どもたちがよく知る植物とは異なる生態を持つ植物の観察から、生物には様々な生き方をしているものがあるという話をする。

児童の感想

・最初、種を見て葉っぱかなと思ったけどこれが種ということを知ってびっくりした。
・種が遠くに飛ぶことで子孫を発展させることが分かるし、きずがついていたりすると遠くに飛べなかったりして「この形が飛びやすいかな」と発見することができて面白かったです。
・この実験をする前は、とぶ種があると知らなかったけど、この実験をして、知った。
・種はただ落ちるだけだと思っていた。でも、結果は種類が違うだけで落ち方が違った。
・タネは土の中でしか発芽しないと思うから飛んでいったタネは土の中に入れないからどうやって発芽するのか調べたい。
・だいたいの種が回ってゆっくりと落ちていった。風が吹いていないのに、なぜ回るか疑問に思った。

学生の感想

学生１（KK）途中でこどもたちがこんなことに気付いたよと報告してくれる場面があった。楽しむのはもちろんのことしっかりと体験して学習できている証だと感じた。何よりとても楽しそうにしてくれていたのが見ていて嬉しかった。

学生２（YI） すごく楽しそうにしてくれて私もうれしい気持ちになった。ただ楽しむだけではなく、飛ぶ種の仕組みや種のある場所などにも興味を示してくれて、この授業の意義をとても感じた。事故なく、安全に終えることが出来て安心した。

学生３（RM） 子どもたちが集まった時に、種の話に関心を持ってくれた。種が飛ぶことに興味を持ち、種を飛ばす中で工夫をしたり、種の個数に注目したり、楽しく生物を学べる機会ができて良かったと思う。実際に種を取りに行きたいなど生物にこれからも興味を持ってくれる反応が得られて良かった。

学生４（AM） 児童がどの程度タネに関心を持って取り組んでくれるのか不安があったが、飛ばし方を工夫したり個体差や種子の様子にも注目したりすることができていて観察力が高いと感じた。後日いただいた感想には、私には思いつかないような視点からの疑問があり新たな発見があった。見慣れないタネを触って実験して、興味を持つきっかけをつくることができたと思う。

学生５（SK） 計画段階では観察中でもこちらが指示をすることを想定していたが、当日は、子どもたちが自分で考え、同じ種子でも状態によって落下の様子が違うのかといったことなどを検証する姿が印象的だった。

また、どのような内容に児童が関心を持つのかということを知ることができ、私たちにとっても良い経験になった。

地学Ｇ：雲が作れる！？ふわふわ！もくもく！大実験！

概要:地学分野では、気圧という言葉が日常生活のどのような場面で使われているのかを子どもたちに問い、気圧が身近にあるということを認識してもらった。次に気圧の説明をすることによって気圧の存在や気圧の特徴について学んでもらい、雲の発生理由の足掛かりとした。最後に雲の発生については、実験なども交えて実際に体験してもらいながら説明した。この題材にした理由としては、身近に存在する雲に焦点を当てることによって理科を身近に感じてもらうことと、身近にある不思議な現象の正体を解き明かすことによって理科への関心を高めるという狙いがあった。

当日の流れ

1. 気圧とはなにかを聞き、気圧に対する認識を確認する。
2. 気圧の説明を、身近にある気圧によっておこる現象の例やスライドのアニメーションなどを用いて行う。
3. 簡易真空容器を使い風船を膨らませ、実験によって気圧を体感してもらう。
4. 雲の仕組みスライドのアニメーションなどを用い、雲のできる仕組みについて説明する。
5. １人に１つ雲をつくるための実験用具を渡し、子どもたちに雲のできる様子を観察してもらう。

実験内容：ペットボトルに線香の煙とお湯を入れ、ペットボトルを押して離すという操作を行い、それによって生じる気圧の差から雲をつくるという実験を行った。

実験材料：炭酸飲料のペットボトル・蚊取り線香・お湯

児童の感想

・雲ができて楽しかった。

・空が作られる働きがよく分かった。

・線香とお湯とペットボトルがあったら作れたので家でやってみようと思った。

・何回も実験させてくれたのでよかった。雲はどのような仕組みで私たちに見えているのかが分かりやすかったので良かった。

・雲ができたけどなぜ触れないのかがわからん。

・ペットボトルの上のほうを押すと気圧が下がって、下のほうを押すと気圧が上がると知って、雪雲、雷雲も同じ原理でできているのかなと調べてみたくなった。積乱雲は同じ原理でできるならものすごく多い水でできているんだろうと思ったから調べてみたい。

・気圧が下がるとポテトチップスのふくろがふくらむと知りました。ペットボトルにお湯をいれてあと

からせんこうをいれたら雲ができることが分かりました。

学生の感想

学生１（NK）生徒が理解できるような内容かつ楽しく学べるような実験ということを両立することが難しかった。また、準備の段階では想定していなかった生徒の行動や発言への対応も難しかった。やはり、良い教員になるためにはあらゆる場面で臨機応変に対応できる力が必要になると感じ、そういった力を今後の教育学部としての活動の中で養っていきたいと考えた。

学生２(MK)これまで実際に児童の前で授業をしたことがなかったので少し不安でしたが、やってみると様々な反応が嬉しく、教える側も楽しんで取り組むことが出来ました。ただ、予想外のことが起こった時に臨機応変に対応することが難しく、教師という仕事の大変さを改めて感じました。今回の取り組みによって理科の楽しさを再確認できました。

学生３(MT)まだ授業で習っていないところを児童に理解してもらえるように頑張った。説明をするとき児童に飽きられないようにするため問いかけを増やしたり、実験を見せたりなど工夫した。本番では、思った通りに行かないことも多かったけど、それを上回るほど楽しくやりがいを感じた。この出前授業を行ったことで教員になりたいという気持ちが強くなった。

学生４(NM)何カ月もこの出前科学教室のために準備したり、子どもたちに実際に授業するという経験はしたことがなかったので、大変だったけれどとても楽しかった。また、子どもたちが実験を成功させて喜んでいるのを見て、この出前科学教室のために苦労して準備してきて良かったなと強く感じた。今回は初めての授業でつたない部分があったと思うが、成功して良かったし、今後の糧にしていきたいと感じた。

３．家政教育講座

本年度、家政講座で実施した取り組みは以下の通りである。
１．一身田小学校、白塚小学校、南立誠小学校、橋北中学校での家庭科の被服実習の補助
２．一身田小学校、一身田中学校での家庭科での調理実習の補助

以下に担当した大学教員による活動報告をまとめて示す。

一身田小学校、白塚小学校、南立誠小学校、橋北中学校での家庭科の被服実習の補助および一身田小学校、一身田中学校での家庭科での調理実習の補助

（活動担当者：平島円）

【目的】

家政教育コースで開講している教育実地研究では、一身田・橋北校区連携校の小・中学校の家庭科における実習補助を行うことにより、学生の子ども理解、教材研究、指導力向上を目指している。また、教育実地研究の履修者以外にも広くボランティアを募り、家庭科の授業についての知識の習得のため、活動を行っている。

【概要】

１．授業科目名

教育実地研究（通年集中）

指導教員：平島円

２．実施日

被服実習補助

一身田小学校５年生

９月１１、１３、１９、２０、２５、２７日、
１０月１、３、１７、１８日、
１月１６、２３、２４、３０、３１日、
２月５、６、７、１２、１３、１９、２１、
２６、２７日
３月（未定）

白塚小学校５年生

１２月３日、１月２１日、２８日

南立誠小学校５年生

２月３、５日

橋北中学校１年生

９月９、１０、１７、１８、１９、３０日、
１０月１日

調理実習補助

一身田小学校６年生

１０月２４、２９日

一身田小学校５年生

１２月５、６、１１日

一身田中学校２年生

１１月１８、１９、２１日

全４４日+未定

３．参加人数および学年

４年生１１名、３年生１１名、
２年生６名、１年生５名、教員１名

延べ　１０６名+未定

４．活動の内容

家庭科の被服実習の補助は、一身田小学校５年生の手縫い、白塚小学校５年生のエプロン制作、南立誠小学校５年生のミシン実習と橋北中学校１年生のティッシュケースの制作授業で行った。また、調理実習の補助は、一身田小学校５年生のご飯とみそ汁の調理および６年生の野菜のベーコン巻きとちくわの磯辺揚げの調理、一身田中学校２年生のニジマスのムニエルの調理の授業で行った。

【成果と課題】

今年度は、多くの小学校と中学校の家庭科の実習時に声をかけていただき、参加した日数も非常に多かった。被服実習の補助が主ではあったが、調理実習の補助も経験できた。さまざまな学校・クラスで、それぞれ雰囲気の違う現場の子どもたちと接する機会を得られること、先生方の授業方法を見られるこ

とが、連携活動の良い点であり、学生たちは大学の授業では得られない学びの場を得ていた。先生方の授業内容の説明方法や、資料等の掲示方法について見られることは、将来、教員になる学生にとって、対応の仕方を考える機会になった。しかし、家庭科の実習を教員一人で行うことは大変なことであり、学生は自分が教員になったときに、一人で授業できるのか逆に不安になってしまう学生も多かった。先生方の授業方法から学び、また地域の人たちの支援により、より良い授業づくりを自ら考えられるようになってほしい。

【学生の学び】

被服実習の授業では、動画を活用することで、子どもたちが完成形を具体的にイメージしやすくなり、作業にスムーズに取り組めることが分かった。また、生徒同士が教え合い、協力しながら進められる環境づくりの重要性も学んだ。特に、小学生と中学生の発達段階の違いを実感し、それぞれに応じた指導の工夫が必要だと感じた。この経験を活かし、将来は学年ごとの特性を踏まえた授業を実践していきたいと思った。（担当学生名：IM）

同じ内容の授業であっても、学校によって、進め方や教え方が異なり、先生方の経験から改善・工夫をされていたり、目の前の子どもたちのレベルに沿って指導方法を工夫されていたりすることが分かりました。子どもたちの生活経験やこれまでに学んできたことをしっかりと把握し、適切な教材、授業内容を考える必要があることを学びました。春からの教員生活でも、この連携活動から学んだことを活かしていけるようにしたいです。（担当学生名：IC）

小学校での手縫いの補助を通して、教員になるに向けて観察力を身に付けたいと思いました。練習布の成果物だけを見るとうまく縫えているとはいえないけれど、成果物に至るまでの子どもの何度も縫い直している姿をみると、教員として子どもの努力の過程を見落とさないようにしたいと思いました。教員が、左利きの児童に向けて説明を追加したり、特別支援の児童に大きめの針と布を用意したりと、細やかな工夫が学びになりました。

中学校では、「中学生だからできるだろう」と思っていても、実は切る作業でつまずきがあったり、火加減が適切でなかったりして、完成したときの子どもたちの達成感も低くなってしまうと感じました。「中学生」というひとくくりで見るのではなく、その子どもがどこでつまずきがあって、どのようにサポートすると自分やグループでの達成感を味わうことができるのか、よく見取る必要があると学びました。（担当学生名：OM）

小学校での被服実習の補助を通して、教師が一人で授業を進めることの大変さを感じました。実習の補助という立場だったので、一人ひとりの児童の様子を観察することができ、児童はどこでつまずいているのかを知ることができました。児童のつまずきから、自分が考えているよりも細かいところまで説明することの大切さを感じました。この実習補助で学んだことを糧にしていきたいと思います。

（担当学生名：KK）

様々な学校へ行ったことで、クラスの雰囲気によって調理実習や被服実習などの実習進度に差が出てくると分かった。また、設備や子どもたちの状況に合わせてその場で授業を臨機応変に変化させながら、限られた時間の中で学びを与えることの難しさを改めて感じた。事前の準備と他の先生方の協力が安全でより良い授業を目指すために必要になってくると考えるため、教材研究と教師間のコミュニケーションを意識するべきだと思った。（担当学生名:KS）

実習補助を通して、小中学生がどのような場面でつまずいているのか、また小中学校でどのような連携が必要になるのかを改めて考えることができた。また、クラスによって進度や声掛けが異なり、それぞれに応じて対応することが大切だと感じた。そして、どのような部分に家庭科の面白さを感じているのかを捉えることで、児童生徒の生活に繋げられるのではないかと思った。今回の学びを、これからの教員生活にいかしていきたい。（担当学生名：KY）

被服実習では、縫い方のサポートだけではなく、ミシンの修理などのサポートが必要であることが現場を見て気づくことができた。トラブルが起こった

ときの対処の仕方も知っておくべきであることを学んだ。また、準備や後片付けなどの時間管理も踏まえて授業を考える必要があることが分かった。自分が教員になったときには、この活動を生かし、授業内容に加えて安全や時間配分にも配慮して授業をしていきたい。　　（担当学生名：NK）

小中学校の家庭科実習補助を通して、子どもの様子をよく見ることが大切だと感じた。何をすれば良いのか分からない様子の子どもを何度か見たため、困っている子どもがいないかよく見て、支援をしなければならないことを学んだ。また、子どもの動きやつまずきを予測して、授業を考えたり、声をかけたりする必要があることに気づいた。今回の活動を活かして、子どもが安心して作業ができる授業をしていきたい。　　（担当学生名：NK）

４．英語教育講座

本年度、英語教育講座で実施した取り組みは以下の通りである。

1. 北立誠小学校での外国語科における言語活動

以下に担当した大学教員による活動報告を示す。

１．北立誠小学校での外国語科における言語活動

（担当：荒尾浩子）

【目的】小学校 6 年の英語の授業内で児童の主体的な英語でのアウトプットが活性化する活動を行った。知っている英語の単語や句の知識を総動員して、実際の場面で使ったり、授業内で学生やクラスの友達のアプトプットから新たな単語を知って、それをすぐにアプトプットして使ってみようとする姿勢を育むこと目的とした。

【概要】2024 年 11 月 27 日に北立誠小学校６年生 3 クラスを対象に実践を行った。まずは学生から英語で一人ずつ挨拶を行い、その際、活動のテーマになる食べ物について、言及した。例えばマレーシアでの研修経験のある学生は、現地で初めて食べたものなどについて紹介し、児童の興味をひいて、英語を注意深く聞いて理解しようとする姿勢を促した。

最初の活動として「はらぺこあおむし」(英語版）の読み聞かせを行った。次に学生から、内容についてクイズを出題し、児童に思うままに答えさせたり、絵本内の Word ゲームのいくつかを行い、英語で答えさせるといった活動を行い、リラックスした雰囲気の中でインプットからアプトプットへの導く活動を行った。そしてもう一度「はらぺこあおむし」読み聞かせを行った。次に、メインとなる伝言ゲームを行った。まずは学生による伝言ゲームのデモンストレーションを見せ、児童は 4～5 人でチームを作り、3 分間でお題に合った単語をいくつ言うことができるかを競う。この際、お題『食べ物』で、お題の名前を英語で言う。細かな手順は以下である。① A チームがお題に沿った英単語をリレー式でつないでいく。B チームは審判をする。②1 人ずつ順番に食べ物の名前を言うが、それまでに言われた食べ物の名前も順番に言う。③2 分間で何個の食べ物を連続で言うことができたかを審判が数える。④A チームのターンが終わったら B チームと審判を交代する。その後、対戦するチームを交替して、2 週目の伝言ゲームを行う。またあらかじめ起こりうる活動上の問題を予測して、ルールとして最初に提示した。これらの活動で、絵本の提示の仕方をスライドにしてアニメーションを追加するなどの工夫が功を奏して臨場感を高め、子どもたちは積極的に参加し、最後まで集中して取り組み、自ら英語を発しようという姿勢が多く見られた。

【成果と課題】

All English を心がけなんとかできた達成感がある。一方で、タイミングを間違えたり、指

示があいまいだったりと反省点も多々あった。

【学生の感想】児童の英語は自分たちの小学生時代より断然、高いと実感した。児童の聞く姿勢がとても良く、その頷きや反応に助けら、協力を感じた。児童のクラスでの雰囲気で活動が成立したと感じている。

５．保健体育講座

本年度、保健体育講座で実施した取り組みは以下の通りである。

１．附属幼稚園における年中児親子活動
２．附属小学校における主体的・対話的で深い学びを実現する体育授業の共同開発
３．南立誠幼稚園における運動遊び
４．一身田中学校におけるラートの授業支援
５．一身田小学校における「水泳」授業の支援と補助
６．南立誠小学校における「水泳」授業の支援と補助

以下に担当した大学教員による活動報告を示す。

１．附属幼稚園における年中児親子活動

（加納岳拓・岡野　昇）

【目的】

乳幼児期の親子による身体的かかわりが自分と他者の心を重ねたり、他者の意図を推測したりする力の基盤となることに着目し、親子での運動遊びを実施した。

【概要】

4 歳児を対象とし，附属小学校の体育館で 11 月 20 日（水）の 9:15-10:15 に実施した。当日に向けて，8 月末までに学生 7 名が個人で企画案を作成した。9 月末までに全体で企画案を作成し，10 月中は学生と教員で検討を重ねた。10 月 15 日（火）に附属幼稚園の先生方と打ち合わせをし，10 月下旬からは学内でリハーサルを行った。当日の 1 週間前には 2 度現地でリハーサルを行った。

活動は，「桃太郎」をテーマに構想し、親と子が互いの動きに応じる「追従運動」と、相手の意図を推測しながら動く「対人運動」を行う活動Ⅰと音楽に合わせて踊ることで一体感を得る「リズム運動」を行う活動Ⅱの二つから構成した。活動Ⅰは、体育館を 3 か所に分け、犬、猿、雉の特徴を踏まえた遊びを実施した。

２．附属小学校における主体的・対話的で深い学びを実現する体育授業の共同開発

（加納岳拓・岡野　昇）

【目的】

授業デザインの検討ー実践（・観察）ーリフレクションを実施することで，「主体的・対話的に深い学び」を実現する視点を得るとともに，学びに向かう人間性と体育の関係性について検討することを目的とした。

【概要】

各学期に 2 本ずつ，計 6 本の授業実践（デザイン検討含む）と観察，リフレクションを実施した。各学期に実施した授業実践は次の通りである。1 学期は，1 年生「ボールゲーム」と 2 年生「鬼遊び」，2 学期は，1 年生「鬼遊び」と 2 年生「ボールゲーム」，3 学期は、1 年生の実践 1 本と 5 年生「保健（救命教育：命のリレー）」を実施予定である。なお保健は，附属小学校だけではなく、日本 AED 財団第 7 回スクールフォーラムでの公開授業（救命救急）に位置づくものである。

【成果と課題】

今年度の実践は，運動の文化的価値を大切にするとともに、トマセロの行為主体性の進化にもとづいてゲームの質の向上と協調的スキルの発達の両面を大切にして実施した。実践は，全て対人または集団

での運動であった。1 学期及び 2 学期の「鬼遊び」は、ともに攻守が入り乱れているゲームかつ仲間との協調が必要なゲームを行った。そこでは，相手と個々あるいはチームで間合いをはかり合うこと，また効率的に技術・戦術を獲得・遂行していくことではなく，状況が変わる中で常に自己の在り方を位置づけ続けることの意義について議論した。「ボールゲーム」では、ボールの保持やベースの守備ではなく、目的地に対しての道を想像すること、さらには仲間とその道を共有することの重要性が議論された。

３．南立誠幼稚園における運動遊び

（加納岳拓）

【目的】

乳幼児期の親子による身体的かかわりが自分と他者の心を重ねたり、他者の意図を推測したりする力の基盤となることに着目し、親子での運動遊びを実施した。

【概要】

4 歳児と 5 歳児を対象とし，10 月 25 日（金）9:30-10:30 に実施した。活動の前半は、ペアでの運動遊びで構成されている『セトちゃんのなかよし運動カード』（瀬戸口，2013）を活用し、2 人組で相手とリズムを合わせる、相手の動きに合わせる、相手の意図を推測したり共有したりする運動遊びを行った。後半は、体操用マットを使用し、相手に合わせて動くだけではなく，自分の体の傾きや移動を楽しむことのできるペアでの運動遊びを行った。

【成果】

4 歳児と 5 歳児の異年齢の中で、お互いの表情や動きから動きや遊び方を変えている様子が見られた。また、はじめは、かたさがあり活動に参加しにくかった園児も、相手と触れ合うこと、自分に合わせて動いてくれていること、そこから相手に応じて動くことという経験を通して、表情やからだがほぐれ、活動に参加する姿が見られた。

４．一身田中学校におけるラートの授業支援

（岡野　昇・加納岳拓・後藤洋子）

【目的】

中学校第 2 学年 6 クラスを対象とした体つくり運動（ラート）の授業に学生が T2 として参加し，ラートの動きに合わせる，またはラートに動きをつくり出すというおもしろさを生徒が味わえるための支援について学ぶことを目的とした。

【概要】

体つくり運動の授業支援に入る前に，8 月 28 日に学生 8 名は，ラートの講習会に参加し，安全面と技能面についてのポイントを学習し，ラート運動学習指導マニュアルを作成した。

授業支援は，9 月 13 日から 9 月 27 日までの計 15 時間（5 クラス×3 時間）行い，各学生が 3 回ずつ参加した。授業後は，一身田中学校の教員からアドバイスを受け，大学教員とリフレクションを実施した。また，参加した授業について，自身の学びとなった場面についてエピソード記述を行い，学生間で共有したのちに，次の支援に参加するようにした。

【学生の感想】

右は，エピソード記述の一例であり，下記はエピソード記述に対する学生のコメントである。

・恐怖心を取り除くためには、「これならできるかも」という経験をさせてあげることが大切だということを学ぶことができました。それをするために、見る体験とやる体験の両方が大切だと改めて分かりました。

「される側」から「する側」へ

学籍番号　○○○○　氏名　○○　○○

KW：乗る，スピード

1．体つくり運動（ラート）授業概要

①　日時：2024 年 9 月 19 日(木曜日)9：50～10：40

②　場所：一身田中学校体育館

③　T1：○○先生

④　T2：○○，○○

⑤　学級：第 2 学年●組

⑥　授業概要

第 2 学年における「体つくり運動ラート」の授業である．本授業は 2 時間目の授業で，めあてとして「重心を移動し，バランスをとろう」と設定して授業が展開された．ラートを使ったストレッチを行い，体を十分にほぐした後，シーソー（足をかけるもの，座って行うものの 2 種）をする課題が与えられた．シーソーでは，重心のかけ方によって上がったり下がったりすることを確認し，体格差があってもお互いに釣り合うにはどうしたらいいか考えながら行われた．次に，スイングをする課題が与えられ，うまく揺れているか，止めるためには進行方向の手を離すことなどを確認しながら行われた．

2．エピソード

足を片方かけるシーソーを行っている時のことである．女子Ａがシーソーを行う際に，「いやだ無理，怖い，高く上げんで．」と声に出した．何度か挑戦しようと試みるが，怖くて上がろうとするとすぐに足を地面についてラートから降りてしまうような状況が続いた．それを見ていた女子Ｂが「そんな怖くないで，何がそんな怖いん？」と言うと，Ａは「足を伸ばすのが怖い．」と言った．シーソーを上手にやっていた女子Ｃに対して私が「スピードをゆっくりでやってあげられる？」と聞くと，Ｃは「わかった．」と言ってＡとシーソーを始めた．Ａは「この早さならいけるかも．」といい，Ａが上に上がった時にＢが「そこで足伸ばして！」と言い，Ａは恐る恐る足を伸ばした．授業が終わり，Ａの振り返りを見ると，「体重を後ろにかけた方が良い．」と書いていた．

3．　考察

女子Ａがシーソーをする際に，「いやだ無理，怖い，高く上げんで．」と言う発言やすぐに降りてしまうことから，上がることへの強い恐怖心を抱いたことがわかる．さらに女子Ｂの「何がそんなに怖いん？」から，Ａの「足を伸ばすのが怖い．」という発言から，Ａはラートや相手に対して不安が強く身を任せられないことが読み取れる．また，女子Ｂは上記の発言にも表れているように，ラートに身を任せすぎてスピードが速かったため，調節をうまくしていた女子Ｃに対して，私が「スピードをゆっくりでやってあげられる？」と促した．

その後，女子Ａの「この早さならいけるかも．」という発言から、ゆっくりで安全だということが分かればできることが読み取れる．そしてＢの「そこで足を伸ばして！」と言う発言から，女子Ａは足を伸ばしてラートに身を乗せ，体重を後ろにかける方が恐怖感が軽減し、安全にできると理解できたことで，振り返りの「体重を後ろにかけた方が良い．」の記載につながったのではないかと考えられる．Ａ自身が身を預ける時と自分がコントロールすることを使い分けることで，状況を変えていったと考える．

今回，恐怖を抱いている要因が本人以外に，行う相手によって引き起こされていたのではないか．ペアを変えることで，ＡＢＣ全ての生徒にとって変化が生まれ，これは今後も見る体験と，やる体験を同期させるために大切であると考える．また，シーソーという技に取り組んだことで，今後重要になる「わざ」である「ラートに身を任せる時とコントロールする時を使い分けること」を再確認することができた．

５．一身田小学校における「水泳」授業の支援と補助

（水藤弘吏）

【目的】

小学校１年生の体育「水泳」の授業における授業支援と補助を目的として一身田小学校内の屋外プールにて実施された水泳授業に参加した。

【概要と成果，課題】

2024 年 6 月下旬から 7 月上旬までの 5 回（7 月 2 日は雨天のため中止）、一身田小学校 1 年生全クラスを対象とした水泳授業に授業支援・補助として参加した。授業内ではプールを囲うように学生を配置させ，児童全体が観察できるようにした。また，実際の水遊びや水中運動の活動では児童とともにプールに入り，活動を児童と一緒にする中で，児童への声がけや，活動内容での児童対応することで授業支援した。

学生たちは実際に小学校の水泳運動の授業がどのように行われているのか知る機会がほとんどなく，水泳運動の授業の実際を経験する良い機会となった。

【学生の感想】

ビート板を使ったバタ足で泳ぐ活動の中で、2 人の児童がどのようにすれば沈むことなく前に進めるかを考えたり、お互いの泳ぎを見て気付いたことを

伝え合ったりしていた点が印象に残った。私がお手本を見せたときも、「潜って見てみればいいんだ！」と言い、水中でどのような動きをしているかを確認する積極的な姿がみられ感心した。水泳を苦手と言いながらも、少しでも遠くまで泳げるようになりたいと努力する児童の姿が特に印象に残っている。（Y. A.）

６．南立誠小学校における「水泳」授業の支援と補助

（水藤弘吏）

【目的】

小学校１年生の体育「水泳」の授業における授業支援と補助を目的として南立誠小学校内の屋外プールにて実施された水泳授業に参加した。

【概要と成果，課題】

2024 年 6 月下旬から 7 月上旬までの 5 回（6 月 26 日は気温が上がらなかったため中止，7 月 1 日は雨天のため中止）、南立誠小学校 4 年生 2 クラスを対象とした水泳授業に授業支援・補助として参加した。授業内ではプールを囲うように学生を配置させ，児童全体の監視とグループに分かれた際の水泳運動指導を実施した。

学生たちは実際に小学校の水泳運動の授業がどのように行われているのか知る機会がほとんどなく，監視および水泳運動の授業の実際を経験する良い機会となった。

【学生の感想】

水の中で動物の動きを真似しながら、プールの中を移動することや、ジャンケンをする活動が印象に残っています。水中で動物のマネをする際、先生の指示が端的でわかりやすく、抑揚があり、聞き取りやすかったです。また、水が怖いと言っていた児童も数人いたが、活動中は楽しんでいる姿が見られました。プールの中央でジャンケンをするときには、ジャンケンができない子が発生しないように、先生子どもたちを誘導していた姿も印象的でした。（F. N.）

６．幼児教育

本年度，幼児教育講座で実施した取り組みは以下の通りである。

1. 南立誠幼稚園における「未就園児の会」
2. 附属幼稚園における「未就園児の会　コアラの会」
3. 附属幼稚園における「よるのようちえん」
4. 附属幼稚園における「ペープサート劇の公演」
5. 附属幼稚園における「親子活動」
6. 附属特別支援学校小学部における「みんなであそぼうの時間」

以下に担当した大学教員による活動報告を示す。

１．南立誠幼稚園における「未就園児の会」

（担当者：水津幸恵）

【目的】

幼稚園における未就園児の会を運営することを通して，子育て支援事業や就園前の子どもおよび親子についての理解を深める。未就園児が楽しめる遊びや活動を，園の先生方や地域のボランティアの方と相談・振り返りを繰り返しながら継続して計画・実践することを通して，実践力を養う。

【概要】

幼稚園が子育て支援の一環として実施する「未就園児の会」の計画・実践を１年間行った。実施メンバーは，園長，民生委員，地域ボランティアの方，幼児教育コース４年生５名であった。幼児教育コースの学生は，授業「教育実地研究」として，先に述べた目的のもと活動内容の計画と実践に取り組んだ。活動内容は下記の表の通りである。

回	月　日	テーマ
1	5 月 23 日	親子で遊ぼう
2	6 月 6 日	さわってみよう
3	10 月 24 日	いろんな音をきいてみよう
4	11 月 7 日	秋をたのしもう
5	11 月 21 日	おへやで体を動かそう
6	12 月 5 日	冬をたのしもう
7	12 月 19 日	プレゼントをつくろう
8	1 月 30 日	ありがとう またね！

各回とも，自由遊び 30 分，全体活動を 30 分の計１時間程度行った。自由遊びでは，季節や育ち，興味関心に応じて制作コーナーやサーキット遊びを準備するなどした。全体活動では，手遊び，ふれあい遊び，歌，絵本や紙芝居，楽器遊びなどを実践した。活動終了後は，園長，民生委員，地域ボランティアの方と毎回振り返りを行い，次回の活動の改善につなげた。

【成果と課題】

学生たちは，毎回の活動と子どもの姿についての振り返りを生かして計画と実践に取り組んでいた。具体的には，身体を動かすことが好きなお子さんが楽しめるよう，サーキット遊びを取り入れたり，外国にルーツのある親子の参加者が多いことから，楽曲「どんな色が好き？」を日本語と英語の両方のバージョンで歌ったりする等，工夫と配慮を重ねていた。また，毎月エピソード記録を作成し，子どもや保護者の方とのかかわりについて丁寧に振り返りを行う中で，次回はもっと積極的にかかわってみよう，こういうふうに声をかけてみようと次の活動につなげようとする姿勢がうかがえた。

１年を通して，自分たちで活動を計画し実践すること，それに対して園長先生，民生委員や地域ボラ

ンティアの方々と振り返りを行い，アドバイスをいただけたこと，そしてそれを次回に生かして手ごたえを感じる経験を積み重ねることができたことで，実践力を養うとともに，保育の楽しさを実感できたのではないかと思われる。

（担当学生：幼児教育コース 4 年生 5 名）

２．附属幼稚園における「未就園児の会　コアラの会」

（担当者：富田昌平）

【目的】

幼児教育コースで 2 年次後期に開講されている「子どもの理解と援助」と「子育て支援」では，附属幼稚園の未就園児の会「コアラの会」での実践を通して，乳幼児の心理及び発達理解をふまえた保育実践（絵本，紙芝居，手遊び，ふれあい遊び，劇，歌，ダンスなど）に関する基本的な知識と技能，及び，子育て中の保護者への理解や支援に関する基本的な知識と技能を体験的に学ぶことを目的としている。

【概要】

コアラの会には，近隣に居住する就園前の幼児とその親 25 組が参加し，月 1〜2 回のペースで実施している。運営スタッフは，幼稚園教員，地域ボランティア，保護者ボランティア，そして幼児教育コースの教員と学生たちである。授業では，見学を含む全 7 回（10/3，10/17，11/14，12/19，1/16，1/30，2/6）に参加し，全体での遊び・活動の企画・運営を担当した。

学生たちは，コアラの会がない日は学内に集まり，実践の計画・準備及びふりかえりを行った。ふりかえりの時間は，実践終了後すぐに運営スタッフ全員で行うものと，1 週間後に学内に戻って記録されたビデオ映像を視聴しながら行うものとの 2 回である。それにより，次の実践に向けての課題や反省をより明確化するとともに，学生間による問題意識の共有化を図った。

【成果と課題】

学生たちは，最初は戸惑いや緊張が多く見られたが，子どもや保護者との距離の取り方やコミュニケーションの仕方を自分なりに探るうちに次第に打ち解け，子ども・発達についての理解，子どもへの援助の仕方，保護者との関係の作り方を学んでいった。

また，全体での実践も，当初は一方的な計画に基づく一方的な遊びの提供や展開が目についたが，自ら実践して得ることができた気づきや反省をもとに工夫し実践を積み重ねていくことで，実践の力量を高めつつ，子どもや保護者との対話的で即興的な実践の作り方を学んでいった最終的にはそれなりに納得のいく実践が行えるようになり，今後の実習に向けて，自信と課題が得られたと思われる。

（担当学生：幼児教育コース 2 年生 11 名）

３．附属幼稚園における「よるのようちえん」

（担当者：富田昌平）

【目的】

幼児教育コースの 1 年次前期の授業「キャリア教育入門」では，附属幼稚園で 7 月に実施されている「よるのようちえん」での遊びのコーナーの企画・運営を通して，幼児期の子どもや園環境の実際についての初歩的な理解を得ることを目的としている。

【概要】

1 年生 11 名で 3，4，5 歳児が楽しめる遊びのコーナーについて話し合い，アイデアを出し合った。附属幼稚園の先生とも相談し，最終的に次の 3 つのコーナーを設定した。実施日は 7 月

20 日（土）で，当日は 2 年生 11 名が補助要員で参加した。

フルーツころりん	9 つのマス目がつくられたゴールに向けて，フルーツに見立てたボールを転がして，うまくビンゴをつくる遊び。
野菜をしゅうかくしよう！	くじを引いて出た野菜（絵カード）を，畑に見立てた場所から，葉っぱやつるなどをヒントに引っこ抜く遊び。
くるくるコマをつくろう！	紙コップとガチャガチャのカプセルをもとに自分だけのコマをつくる遊び。

子どもの年齢によって遊び方やかかわり方，進め方などを考えながら工夫した。

【成果と課題】

遊びのコーナーは，いずれも場の設定の仕方や遊びを十分に楽しむための展開の仕方やかかわりの工夫などの点において，まだまだ課題が多く見られたが，初めての子ども向けの遊びの企画・運営を通して，子どもや園環境についての初歩的な理解を得るという当初の目的はそれなりに達成できたように思われる。以下，学生による感想の一部である。

「今回の取り組みを通して，自分たちで準備したもので子どもたちが楽しそうに遊んでくれるうれしさや達成感を感じることができました。当日までは子どもたちは楽しいと思ってくれるかな，うまく遊んでもらえるかなと不安でしたが，「上手に収穫できた？」と聞くと，「こんなに大きなサツマイモとれたよ！」などと教えてくれる子どもたちもいて，私自身もとても楽しい時間を送ることができました。」

（担当学生：幼児教育コース 1 年生 11 名）

４．附属幼稚園でのペープサート劇の公演

（担当者：吉田真理子）

【目的】

乳幼児期の子どもに向けて学生自身が実際に演劇を実施することを通して，言語的・造形的・音楽的表現に対する視座を高め，子どもの表現理解に役立てることを目的とした。またその際，題材となる絵本や昔話などの児童文化に関する知識を深めるとともに，子どもの反応を通して子どもの感性に触れることもねらいとした。

【概要】

１　授業科目名

前期：表現ⅠA，表現ⅠB

後期：表現ⅡB

２　受講者数及び学年

前期と後期ともに，幼児教育コースの 3 年生 11 名と技術・ものづくり教育コースの 3 年生 1 名であり，計 12 名が受講した。

３　公演時期，学生の担当時間数

(1) 前期 7/20

絵本『ふしぎなキャンディーやさん』（宮西達也）を題材に，週に１コマで半年間取り組んだ。

(2) 後期 1/22

絵本『はだかのおうさま』（アンデルセン）を題材に，週に 2 コマで半年間取り組んだ。

４　活動の内容

それぞれの題材となる絵本をもとに，各自の役割（①脚本班，②制作班，③音楽班，④演技，⑤照明，⑥黒子　※役割は重複あり）を決め，劇づくりに取り組んだ。

当日までの活動内容として，①脚本では，劇に合うように，絵本のセリフや場面を考え直した。②制作では，段ボールなどの身近なものを使いながら，登場人物や背景を制作した。③音楽では，ドアの音などの効果音や暗転時の挿入歌などを考え，実際の楽器を使用したり録音し

たりしながら準備した。④声の配役を決め，当日までに抑揚などの言語表現を練習した。⑤場面に合わせながら照明の使い方を考えた。⑥スムーズな場面転換や登場人物のリアルな動きを考えて練習した。

【成果と課題】

『ふしぎなキャンディーやさん』に関しては，元の絵本を少し工夫して，参加型の劇にしようとしていたが，最初はそれが難しかったようである。けれど，子どもがおもしろいと思えるような演出を考えることによって，本番では子どもたちの反応が良く，学生も手ごたえがあったようである。

『はだかのおうさま』に関しては，昔からの物語であり，複数の出版社から絵本が出版されているため，どの絵本を参考にするのかを選ぶのが難しかったようである。なかでも，おうさまは市民からどう思われていたかとか，嘘をつかれたときやそれを知ったときのおうさまの気持ちはどうだったのかということを考え，それをどう表現するのかという点で，意見が分かれたものの，そのことが児童文化に対する造詣を深めるきっかけにつながったと考えられる。

5. 附属幼稚園における「3歳児親子活動」

（担当：水津幸恵）

【目的】

附属幼稚園における 3 歳児親子活動の内容を計画・実践することを通して，保育実践に関する基本的な知識と技能を身に着ける。2 年次後期の附属幼稚園での未就園児の会「コアラの会」での経験をもとに，3 年次 9 月の幼稚園実習を見据えて，学生間で意見を出し合い，幼稚園の先生方に助言をいただきながら，協力して実践を行うことを経験する。

【概要】

2024 年 6 月 13 日（木）に，附属幼稚園 3 歳児クラスにおいて，親子で触れ合って遊べる遊びを計画・実践した。幼児教育コースの 3 年生 11 名は，授業「幼児教育学」の一環として，先に述べた目的のもと活動内容の計画と実践に取り組んだ。当日の活動内容は以下の通りである。

ねらい：ねらい：親子でたっぷり触れ合ってゆったりと遊ぶ時間を楽しむ。身近な素材（バスタオル）を使ってさまざまに遊ぶ面白さを感じる。	
時間	活動の流れ
10：30 10：40	○おたまじゃくし体操 ○バケバケちゃんと遊ぼう （バスタオル遊び） ・かくれんぼ ・ボールにして転がす ・トンネル　等
	休憩
11：00	○バケバケちゃんと遊ぼう ・「きゅうりができた」（ふれあい遊び）
11：10	・子どもがバスタオルの上に乗り，保護者が引っ張る
11：20	○大型絵本『にんじんとごぼうとだいこん』 終了

活動内容としては，おたまじゃくし体操を楽しんだ後，バスタオルをさまざまなものに変身する「バケバケちゃん」に見立て，バスタオルに隠れてあそんだり，ボールにして転がしたり，トンネルにしてくぐったりするなどした。また，バスタオルにくるまるふれあい遊びや，子どもがバスタオルの上に乗り保護者が引っ張るといったさまざまな動きを楽しんだ。最後に大型絵本の読み聞かせを行った。

【成果と課題】

バスタオルという素材を通して親子が楽しめる活動を考えることを通して教材研究の大切さを，3 歳児がその面白さに出会って楽しめるような提案の仕方や進め方を考えることを通してその難しさと工夫の

必要性を実感する機会となったようである。また，学生間で意見を交わし，よりよい活動にしようと時間をかけて検討する姿がみられ，意見を伝え合い，協力し合おうとする関係性も養われたと考える。

（担当学生：幼児教育コース 3 年生 11 名）

６．附属特別支援学校小学部における「みんなであそぼうの時間」

（担当者：富田昌平）

【目的】

4 年次後期の「教職実践演習」の一部として，附属特別支援学校小学部との連携授業を行った。保育現場で働く前に，特別な支援を必要とする子どもやそのための環境及び支援についての理解を深めるとともに，実際に実践を行うことで実践力を高めることを目的とした。

【概要】

附属特別支援学校遊戯室で 2 限目「集団活動みんなであそぼう」の時間に実施した。実施日は 11 月 13 日（水）で，対象は特別支援学校小学部の子どもたち 18 名（各学年 3 名）であった。担当の先生からは事前に，子どもたちは模倣したり先生の様子を見て楽しんだりして参加することができること，当該年度は「集団学習」と「音体」の授業で様々な手遊びに取り組み，経験していることを伝えられていた。

授業では，自己紹介を行った後，①信号ゲーム，②裏返しゲーム，③大型絵本『おおきなかぶ』の読み聞かせという 3 つを行った。また，音楽に合わせて体を動かす遊びやバルーン遊び等，普段行っている遊びにも参加させてもらい，授業後には 1 時間ほど教室内と授業の様子を見学させてもらった。

【成果と課題】

信号ゲームは，全体で輪になり，実践者の「赤」「青」「黄」の言葉をよく聞いて，それに合わせて「とまる」「すすむ」「きょろきょろ」などの行動をとる遊びである。スピードをあげたり，複数を組み合わせたりなど変化を加えながら，みんなで同じ動きを同じテンポで，思い切り体を動かすことの楽しさを味わうことができた。

裏返しゲームは，遊戯室に散らかして置かれた表が「赤」で裏が「青」という円盤を，決められた時間内に赤チームと青チームがそれぞれ自分の色になるように急いでひっくり返していき，最終的にその数を競うという遊びである。簡単なルールでどの子も取り組みやすく，共通の目標を持ったチームとしての一体感も感じながら，思いっきり体を動かして楽しむことができた。

最後の絵本『おおきなかぶ』の読み聞かせでは，「うんとこしょ　どっこいしょ」という発声とその動作をみんなで合わせて行うことで，単に物語を理解することとは違った楽しさを，仲間とともに味わうことができた。

子どもたちは思った以上にノリよく参加して，学生たちも手ごたえを感じることができた。

（担当学生：幼児教育コース 4 年生 10 名）

７．栗真小学校

本年度、栗真小学校で実施した取り組みは以下の通りである。

1. 低学年生活科（秋みつけ）における学習支援
2. 数学教育学生による教育実地研究基礎
3. 教育実習生の受け入れ
4. かがやき栗真小フェスティバル（学習発表会）への参加
5. 教員を対象とした研修（国語科の授業について）への助言
6. ５年生総合的な学習の時間（防災教育）における学習支援
7. ４・５・６年生音楽における学習支援

以下に活動報告を示す。

１．低学年生活科（秋みつけ）における学習支援

（理科教育　平山大輔先生と学生）

【目的】

１・２年生の生活科単元「秋みつけ」において、三重大学の校内で落ち葉や木の実の採集を行い、秋の自然について興味を持ったり植物について学んだりする。

【概要と成果、課題】

１１月２５日、１・２年生の子どもたちが校外学習として、大学キャンパスを訪問した。生活科の「秋みつけ」の学習の一環として、大学キャンパス内にある落ち葉や木の実の説明を理科教育の平山教授から聞き、採集を行った。

小学校区にある大学キャンパスで、身近な木や実について、大学の教授が分かりやすく話をしてくれたので、子どもたちは興味や関心をもって自然に親しむことができた。名前を知らない落ち葉であったり、見たこともない木の実を見つけたりする度、平山教授に専門的な説明をしてもらい、よりよい環境教育の場となった。

大学のキャンパスには多様な木々が植えられており、ちょうど落葉の時期にある木々が多かったので風に吹かれて舞う葉を興味深そうに見つめる子どもたちの姿があった。「秋みつけ」には絶好の場所となっており、子どもたちは「この葉はなんていう葉ですか。」「このとげとげは何ですか。」と平山教授に、疑問をたくさん投げかけていた。平山教授には、専門的な知識を交えながらわかりやすくお話していただき、たくさんの疑問に応えてくださった。

全体を通して学生ボランティアの参加もあり、今回のような校外活動では、広い構内での移動や休憩時のトイレ移動の際、児童の動きをいっしょに見守ってもらうことができ、安全面においても大変安心できた。

小学校から三重大学までの往復に時間がかかることについては、昨年度と同じように昼食を三重大学構内で取り、そのまま下校という形式にしたことで、子どもたちにも負担のない活動にすることができ、大学での十分な活動時間を確保することができた。

２．数学教育学生による教育実地研究基礎

（数学科教育　川向洋之先生と学生）

【目的】

各学年における学習支援や支援を必要とする児童への個別の支援体制づくりの１つとする。

【概要と成果、課題】

年間を通して、４名の教育実地研究基礎の学生を受け入れ、１年生と６年生に毎週１時間、算数の学習の児童支援を中心にお願いした。

週１時間という限られた時間であるため、当日は担当教師との打ち合わせは無く、学生が臨機応変に自主的に活動していた。初めのうちは、どのように支援すればよいのか戸惑っていたが、少しずつ自分から子どもたちに関わる姿が見られるようになった。

１年生では、前期が木曜日の２限目、後期が木曜日の３限目に、算数の学習の児童支援を行ってもらった。小学校に入学してすぐの学年であるため、４名のうち３名にお願いした。困り間のある児童が複数いても、すぐに対応してもらえるので、担任としてはとてもありがたかったと聞いている。また、子どもたちも、声掛けや補助などをしてもらい、学生が来ることを楽しみにしていた。

６年生では、木曜日の４限目に、算数の学習の児童支援を行ってもらった。６年生は、１名にお願いし、児童の机間巡視、声掛けをしてもらった。困っている子に優しく声をかけ寄り添ってくれていた。

今年度は、発達段階の異なる児童への支援を経験してもらうために、定期的に入れ替えを行った。学生からは、発達段階の異なる児童への支援を経験できてよかったとの声があった。また、回を重ねるごとに学生と子どもたちが打ち解けて話をする姿や、休み時間に子どもたちと一緒に遊んでいる姿も見られた。

課題としては、本校は小規模の単学級ばかりの学校であるため、学生の希望する時間との調整が難しかった。昨年度、気になった学生の基本的な態度については、今年度の学生は、自分から挨拶をするなど基本的なことは身に着いているように感じた。子どもたちは、お兄さんお姉さんを良いお手本として見ていることが多いので、今後も、その意識を持ちながら、主体的に活動してもらえるとありがたい。

３．教育実習の受け入れ

【目的】

本校の教育目標・教育計画に沿って、一定の期間、本校の教諭の指導を受けながら一定の教育内容を実践分担するという立場で教育にあたり、教職的資質を養う。

【概要と成果、課題】

９月３日～３０日の１８日間、２名の教育実習生を受け入れた。

３年生と５年生の学級で実習生を受け入れ、朝の会から帰りの会までそれぞれの学級で授業づくりだけでなく学級経営の方法や児童理解の大切さ等について指導を行った。３年生では「割り算（算数科）」５年生では「たずねびと（国語科）」の単元について、それぞれの実習生は、指導案を作成し、授業を行った。（10～15 時間）

実習生は、担当学年だけでなく他学年の授業も参観することで、子どもたちと関わるための幅広い知識を身に付けようとしていた。また、教員から校務分掌の講話を受けることで、教員の仕事の裏側について知ろうとすることができた。いずれも熱心な態度で実習に励んでいた。

授業づくりでは、一人ひとりを大切にする授業・だれもが主役になる授業を意識し、授業を行うことができた。３年生では、ロイロノートで作った資料を元に授業を行い、視覚的・直感的に学習内容を理解できるように工夫することができた。また５年生

では、導入時にシンキングツールを使って、人物の関係を視覚的に表したりするなど、工夫を凝らしていた。また、タブレットを意識的に活用することで、児童の主体性を引き出そうとする工夫も見られた。休み時間や行事では積極的に児童に話しかけたり、自ら行動したりと児童理解・教員としての役割遂行に努める姿が見られた。

子どもたちは、ていねいに優しく接してくれる学生を慕い、自分から実習生に質問をしたり、話しかけたりしていた。誠実に一生懸命に向き合ってくれる実習生の様子に子どもたちも心を開き、子どもたちと実習生の間に信頼関係が築かれたように思う。課題は、本校は小規模校であることから、受け入る学生数には限界があるということである。今後も少人数の良さを生かした取り組みを行っていきたい。

４．かがやき栗真小フェスティバル（学習発表会）への参加

（社会科教育　宮岡邦任先生と学生）

【目的】

かがやき栗真小フェスティバル（学習発表会）において、大学のより専門性の高い活動を児童たちが体験する。

三重大との連携活動の様子を保護者・地域の方に知ってもらう。

【概要と成果、課題】

１１月１６日に行われた「かがやき栗真小フェスティバル」（学習発表会）において、社会科教育の学生に、その専門性を活かし子どもたちが楽しく学べるブースを担当してもらった。

社会科教育の学生は、「新聞紙を使った防災テクニックや生活で役に立つもの」というテーマで、活動体験を通して子どもたちが主体的に新聞紙の活用方法について学ぶことができた。

「新聞紙を使った防災テクニック」では、簡単に作ることができる「スリッパ」の作り方を実際に作りながら学ぶことができた。新聞紙のみを使って、子どもたちも３分ほどで作ることができ、子どもたちも楽しそうに取り組む姿があった。

大規模な地震など自然災害が起きた際には、避難所での生活を子どもたちも余儀なくされることが考えられる。特に、冬場は寒いこともあり、裸足で歩くのは辛い。そうした時へのテクニックとして、生かすことができると感じながら、子どもたちは取り組むことができた。

また、新聞紙を使ったごみ箱の作り方についても学ぶことができた。こちらはスリッパと比べると作る際に、少し難しそうにしている子どもの姿があったが、慣れている子はスラスラと取り組んでいる姿があった。

子どもたちは、SDGs に関する大学生の説明を聞いた後、新聞紙を使って主体的に取り組んでいる姿があった。どちらの作り方でも、のりやはさみを使わずに「新聞紙のみ」を使ったものだったので、低学年も大学生の説明を聞いて、楽しそうに作っていた。特に、スリッパは作りやすく、「防災」とも絡めた内容だったので、良かった。

課題としては、せっかく準備していただいたが、１ブースあたりの時間が短く、両方を作ることができなかった、スリッパを両足作ることができなかったなど、十分に体験できない子もいたことである。

５．教員を対象とした研修への助言（国語科の授業について）

（国語科教育　　守田庸一先生）

【目的】

校内研修において、教材を通して国語科の授業づくりについて学ぶ。

【概要、成果と課題】

「個別最適な学び・協働的な学びに関わる国語の指導について」をテーマに、ステップ３の授業を目

指した国語科の学習について、具体的な教材を用いて考え、話し合った。教育も多様になっていることを改めて実感した。

「スイミー（2年)」を用いて、実際に協働的な学習を行った。好きな場面とその理由を書いた後、教員同士で好きな場面について伝え合い、感想を言い合った。それぞれの考えが新鮮で、おもしろいと感じた。このような活動を子どもたちにさせたい。そうすると、必然的に教科書を読むことになる。実際に、好きな理由を考えるときは、言葉や表現の方法に注目して教科書を読んだ。その他にも、教師の「ねらい」と子どもの「めあて」について、授業づくりの発想を紹介していただいた。例えば教師のねらいが、「文章を要約させる。」であったとする。この場合、子どものめあてを「文章を要約しよう。」にするのではなく、「この文章を読んだことのない人に内容を紹介しよう」とすると、子どもがより主体的に取り組むことが予想された。

今回の研修では、授業をつくる際の発想のヒントをたくさんいただいた。具体的な教材を使ってたくさん紹介していただいたので、今後授業に取り入れていきたい。

６．５年生総合的な学習の時間（防災教育）における学習支援

（環境教育　宮岡邦任先生）

【目的】

栗真地域の防災について知る。液状化現象の実験を通して、地震が起きたときや起こるまでに、自分たちができることを考える。

【概要と成果と課題】

１２月５日（木）３，４限目、５年生に防災の授業を行った。

前半の講義では、宮岡先生が栗真地区の特徴について防災の観点から詳しく学んだ。子どもたちは、栗真の今と昔を比較した海岸の地図を見て、昔は砂地だったところが現在は住宅地になっていることなどを知った。次に、液状化の仕組みについて学んだ後、学生の支援のもと、グループに分かれて液状化の実験を行った。

事前に３種類の砂を用意した。その中の一つは、栗真小学校のグランドの土である。水槽に水を加えながら、それらの砂を組み合わせて層を作った。そして、建物に見せたレゴを作った土地の上に置き、水槽をガタガタと揺らして地震を起こした。すると、だんだん地面がドロドロになって、建物（レゴ）が倒れた。これが液状化現象であることがわかった。土の種類を変えたり、地下水の量を変えたりして、何度も実験を行った。子どもたちは、楽しみながら実験を行っていた。実験の後は、自分たちが住んでいる地域がこうなることがわかり、どんなふうに避難するか家族と話し合っておきたいという感想を言っていた。

最後に、この学習で分かったことを振り返った。子どもたちの振り返りからは、「栗真が昔、海岸だったことを初めて知って驚いた。液状化のことがよくわかった。」「液状化で、亡くなる人がいないことが分かった。落ち着いて避難しようと思った。」などと書かれていた。

昨年度に引き続いて２回目ということもあり、打合せは２回行い、実施に至った。当日は片付けも含めて、学生がよく動いてくれた。子どもたちも、楽しみながら学習することができた。

７．４・５・６年生音楽における学習支援

（音楽教育　上ノ坊航也先生）

【目的】

のびやかな声で、曲の雰囲気に合わせて歌うことができる。自分のパートの役割が分かり、みんなと一緒に演奏することを楽しむ。

【概要と成果と課題】

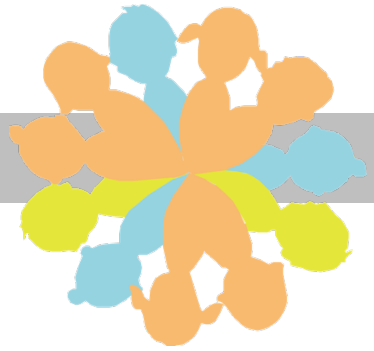
栗真小フェスティバルで、４・５・６年生は演奏を披露している。今年度は、合唱と合奏を行った。

合唱は「believe」、合奏は「ケセラセラ」であった。今回は、上ノ坊先生と音楽を専門とした学生合計２回来ていただいた。１回目の授業では、声の出し方や表現の仕方を教えてもらい、練習した。歌詞のまとまりを理解すること、きれいな声を意識することなどを学んだ。合奏では、それぞれの楽器の役割を学んだ。特に打楽器は、リズムを刻む要の楽器であることが分かった。子どもたちは、学生の声をききながら、教えてもらったことをやってみようと、積極的に歌ったり、質問したりしていた。２回目の授業は体育館で、本番を意識して行った。広い場所で声を出すときに注意することを聞いた子どもたちは、それをやってみようと試していた。

２日間とも、子どもたちは上ノ坊先生や学生の話をよく聞き、意欲的に取り組んでいた。指導もやさしく、子どもたちにとってもわかりやすく、とても楽しい音楽だった。楽しく学んだその成果を生かし、本番は、合唱も合奏も大成功した。

課題は、日程調節が難しいことである。今回は２回の実施であったが、３回以上お願いしたい。

第2部
学生の声



Ⅰ 連携活動に参加して

本年度、地域連携活動に参加した「学生の声」は、以下の通りである。

○ 社会科教育コース

・T.I.さん

総合的な学習の時間の一環で町探検をしていた。子どもが高田高校の災害用の備蓄が入っている倉庫を見て、「社会科で習ったやつだ」と言っている姿が印象的だった。自分の身近な地域と社会科での学習をつなげながら理解しようとしていて、教室での授業からそのようなものに興味をもてるような授業づくりができるとよいのではないかと感じた。また、子どもたちが地域の方とコミュニケーションをとりながら地元に関する知識を深めることができていたと感じた。

○ 数学教育コース

・R.N.さん

連携活動は、私にとって小学校を体感できる素晴らしい機会でした。学校の先生方が随所になさる授業の工夫には、とても感銘を受けました。その一つに、黒板に貼る磁石の活用法があります。これは、私も教育実習でぜひやってみたいと思える、具体的で効果的なものでした。児童は、1週間経つと計算スピードが格段に上がっていたり、できなかったことができるようになったりして、こどもの成長を感じ、それを支援する喜びを感じました。私にとって、連会活動は、多くの気づきを与えてくれる充実した活動でした。

・S.I.さん

私は、学習塾やボランティア活動で、子どもたちと接する機会がありましたが、そこでは見られない中学校での子どもたちの様子や、実際の授業の様子を見ることができました。真似してみたいと感じる活動や説明について、担当の先生と意見交換をすることにより、授業作りについて対話的に学ぶことができる貴重な機会を得ました。また、担当の先生の授業を生徒とともに受け、生徒からの質問に答えることで、授業の内容と生徒の理解度との関係が体感できたことも貴重な経験となりました。

○ 理科コース

・M.M.さん

今回の出前授業を通して、北立誠小学校のみなさんの探究心の高さを感じました。「なぜこの現象が起きるのか？」、「この場合はどうなるのだろう？」という純粋な疑問を解き明かすべく検証しているみなさんの姿は、理科教員を目指す私にとっても得るものがありました。

○ 音楽教育コース

・R.N.さん

教育実習と違い、少し客観的な立場で現場の授業を見ることができたため、実際に現場の先生 がどのような工夫をして授業を行っているのか、それに対する子供たちの様子はどうかじっくりと 見ることができ、とても勉強になった。また、授業内容については大学の授業でもある程度学ぶことができるが、授業に集中できていない生徒に対する働きかけなど実際に子供たちを前にしないと分からない課題点が多々あることにも気づくことができた。

○ 保健体育コース

・K.W.さん

恐怖心を取り除くためには、「これならできるかも」という経験をさせてあげることが大切だということを学ぶことができました。それをするために、見る体験とやる体験の両方が大切だと改めて分かりました。

○ 家政教育コース

・I.C.さん

同じ内容の授業であっても、学校によって、進め方や教え方が異なり、先生方の経験から改善・工夫をされていたり、目の前の子どもたちのレベルに沿って指導方法を工夫されていたりすることが分かりました。子どもたちの生活経験やこれまでに学んできたことをしっかりと把握し、適切な教材、授業内容を考える必要があることを学びました。春からの教員生活でも、この連携活動から学んだことを活かしていけるようにしたいです。

○ 英語教育コース

・F.A.さん

連携活動を通じて一番に考えたことは小中連携の大切さです。私は来年度から中学校英語科教員として働くこととなりましたが、中１ギャップは特に英語科において昨今深刻な課題です。この問題に対して中学校教員がアプローチするためには、小学校での学びを詳しく知ることと密に連絡を取り、出来るだけ小・中間がなだらかになるように足場掛けすることが大切だと実感しました。連携活動を通じて中学校で働く前に小学校、幼稚園で少しでも経験を積めたことは私にとって大きな財産です。

○ 幼児教育コース

・K.I.さん

南立誠幼稚園の未就園児の会と附属特別支援学校の連携授業を通して、より幼い子どもや支援の必要な子どもがする活動について考える際、子どもはどの程度自分でできるのか、そのためにどう説明し、どう支援に回るのか、という「支援への視点」を含んだ子どもの立場を学ぶことができた。

また、未就園児の会では、１年間保護者の方と関わる機会を通して、子どもの成長を共感し合えることの喜びと、保護者とのコミュニケーションの機会の大切さも学んだ。

学校連携推進委員会

連携活動の

取り組みの

成果と検証

教員採用率向上

の観点から

1

Ⅰ.

結果の概要

2

Ⅰ．結果の概要

基本的には
昨年度と
同様の傾向
であった

3

ほとんどの学生は
今回の経験
（連携活動）は
教職を考える上で
比較的強く
意味があったと
感じていて

実際に経験することで
より具体的に
教職について
考えられるようになった

と実感していることが
わかった！

4

また、
ほとんどの学生は
教職に対する考え
が変わったと
感じていて

実際に実習や授業に
ついて
知ることができた

と回答していることが
わかった！

5

連携活動は **教員志望**の**意識づけ**・
動機づけの観点から

成果があったことが
あらためて確認できた

ゆえに
前年度に引き続き
このまま継続して
行っていく
ことが重要であると
思われます

6

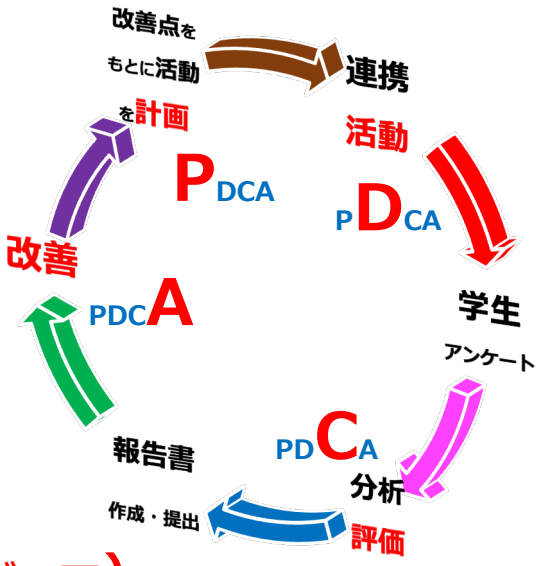
II.
結果の詳細

7

Ⅱ-1.
検証方法

8

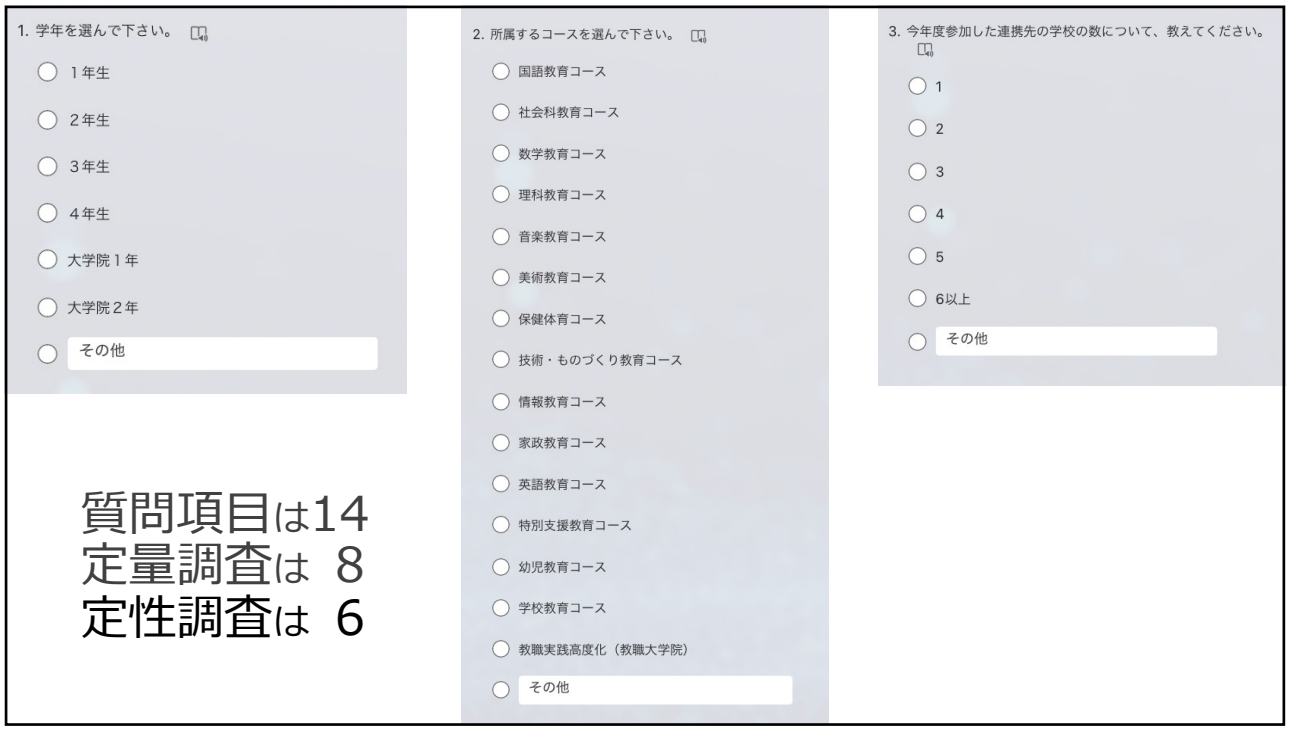
実施後に
学生アンケートを
実施



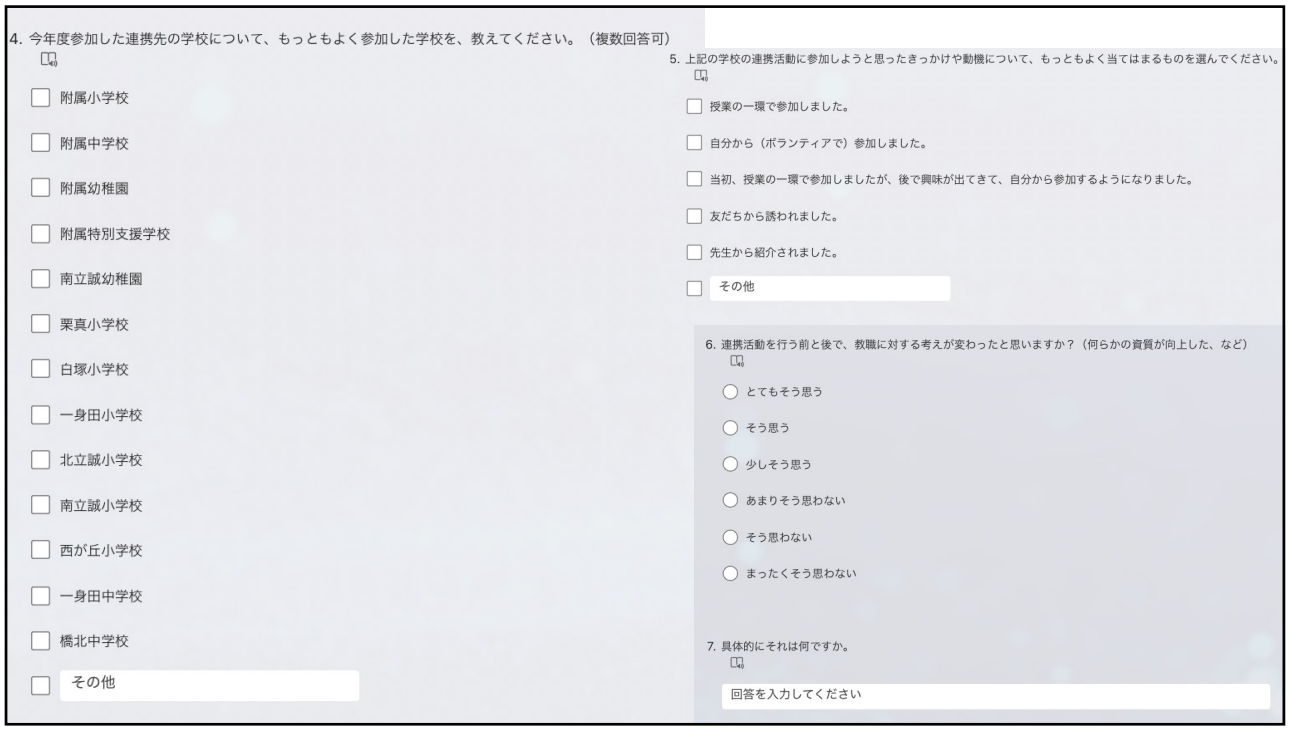
今年度の
成果の検証を
定量的
（数値・データに基づいて）
に行いました

9

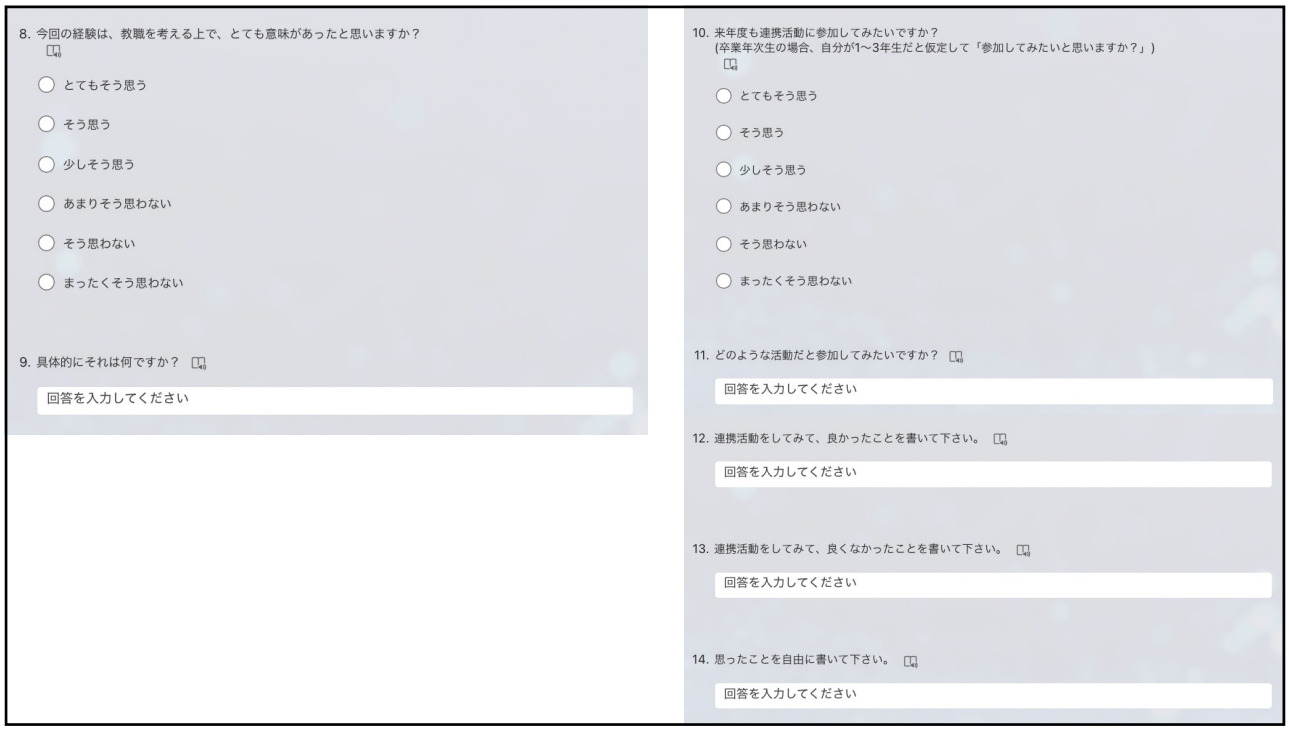
10


1. 学年を選んで下さい。
１年生
２年生
３年生
４年生
大学院１年
大学院２年
その他
2. 所属するコースを選んで下さい。
国語教育コース
社会科教育コース
数学教育コース
理科教育コース
音楽教育コース
美術教育コース
保健体育コース
技術・ものづくり教育コース
情報教育コース
家政教育コース
英語教育コース
特別支援教育コース
幼児教育コース
学校教育コース
教職実践高度化（教職大学院）
その他
3. 今年度参加した連携先の学校の数について、教えてください。
1
2
3
4
5
6以上
その他
質問項目は14
定量調査は 8
定性調査は 6

11


4. 今年度参加した連携先の学校について、もっともよく参加した学校を、教えてください。（複数回答可）
附属小学校
附属中学校
附属幼稚園
附属特別支援学校
南立誠幼稚園
栗真小学校
白塚小学校
一身田小学校
北立誠小学校
南立誠小学校
西が丘小学校
一身田中学校
橋北中学校
その他
5. 上記の学校の連携活動に参加しようと思ったきっかけや動機について、もっともよく当てはまるものを選んでください。
授業の一環で参加しました。
自分から（ボランティアで）参加しました。
当初、授業の一環で参加しましたが、後で興味が出てきて、自分から参加するようになりました。
友だちから誘われました。
先生から紹介されました。
その他
6. 連携活動を行う前と後で、教職に対する考えが変わったと思いますか？（何らかの資質が向上した、など）
とてもそう思う
そう思う
少しそう思う
あまりそう思わない
そう思わない
まったくそう思わない
7. 具体的にそれは何ですか。
回答を入力してください

12



13

Ⅱ-2.
結果と分析

14

回収数

104件の回答を得た

2023年度は
83件であった

15

2023年度の
結果と

2024年度の
結果を

比較した際

16

4年生の回答者数が
増えたこと以外

全体的な
回答傾向に
大きな変化は
見られなかった

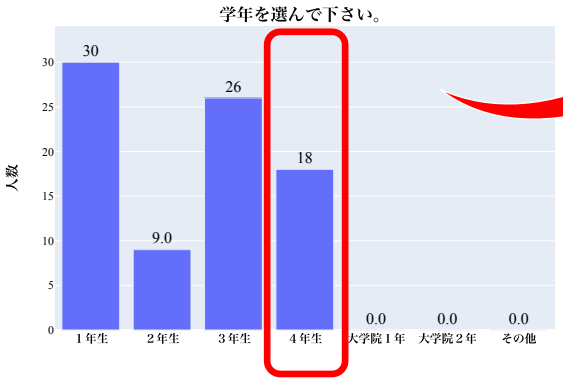
17

以下に
それを具体的に
示します

18

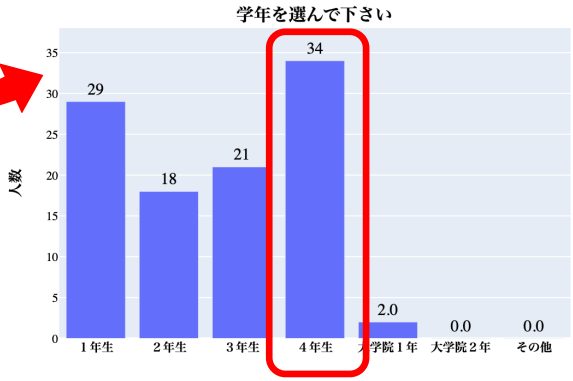
2023年度

2023年度　連携活動に関する学生アンケート



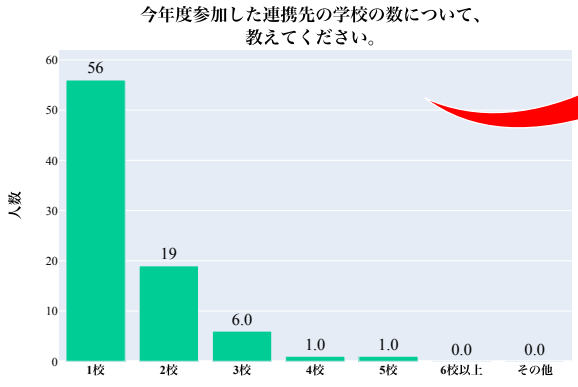
2024年度

2024年度　連携活動に関する学生アンケート

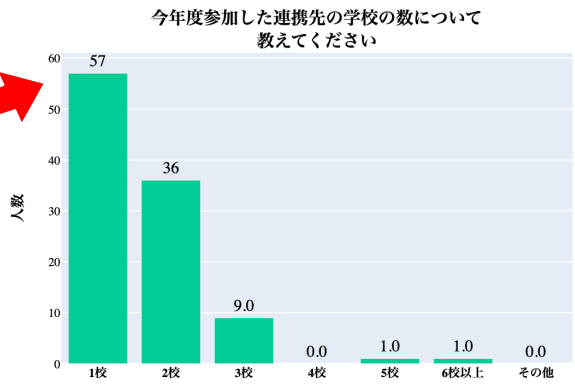


19

2023年度

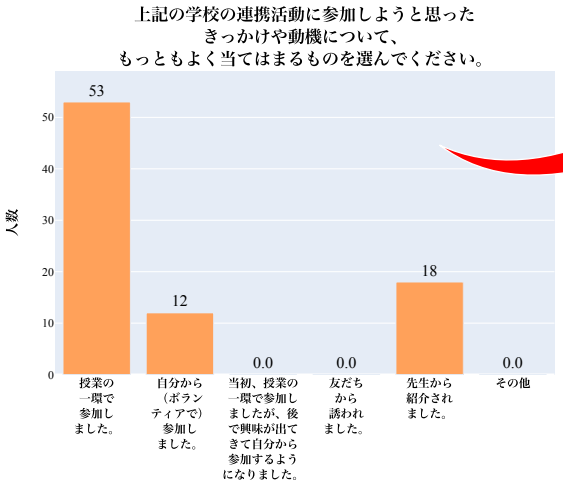


2024年度

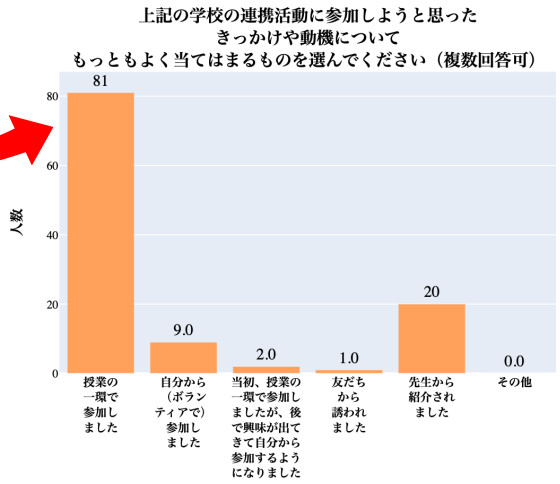


20

2023年度

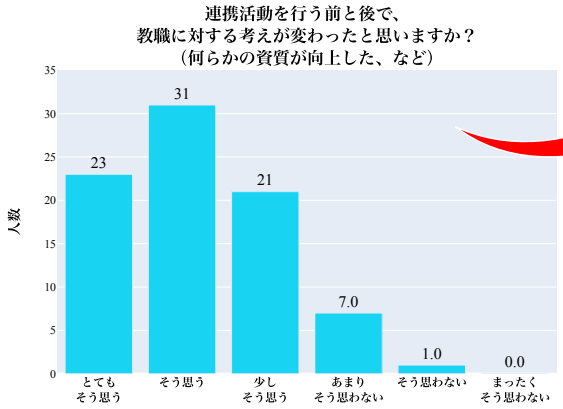


2024年度

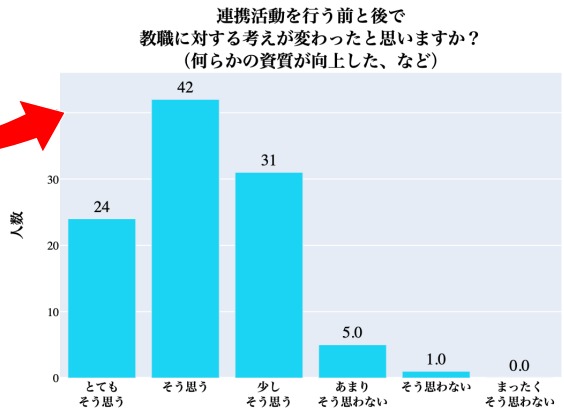


21

2023年度

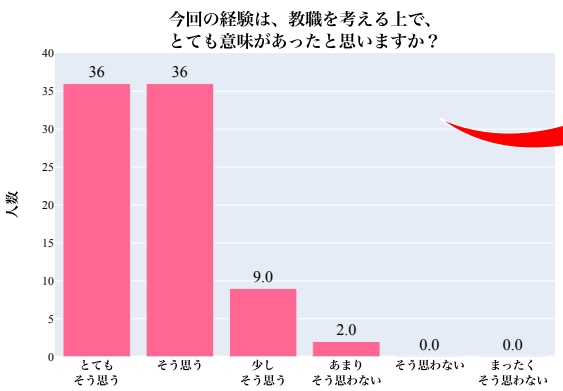


2024年度

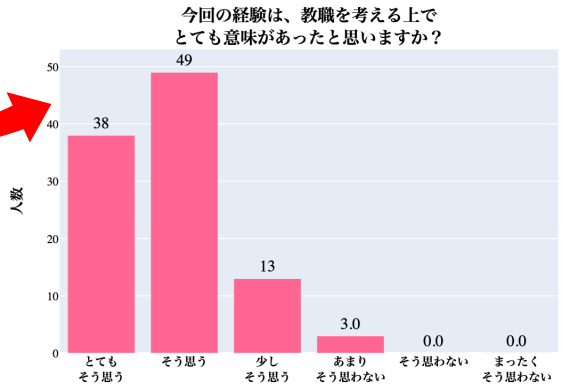


22

2023年度

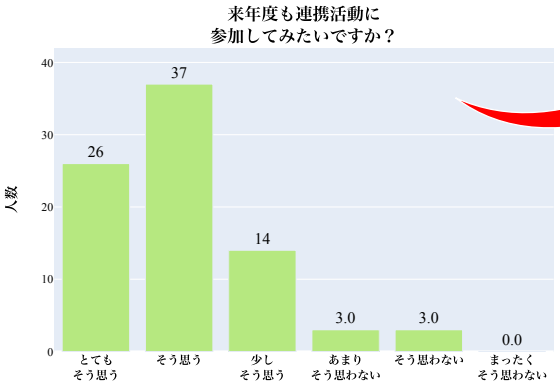


2024年度

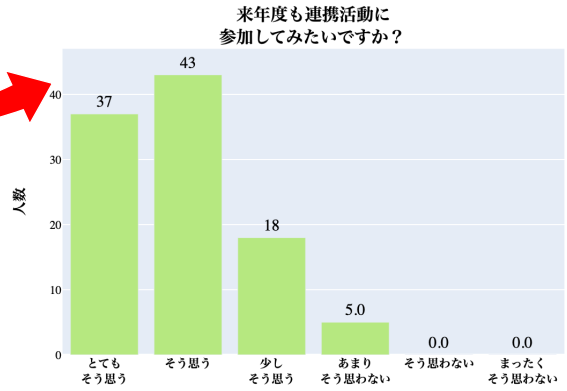


23

2023年度



2024年度

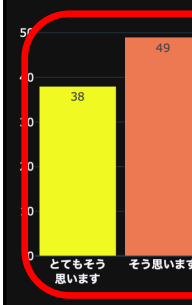


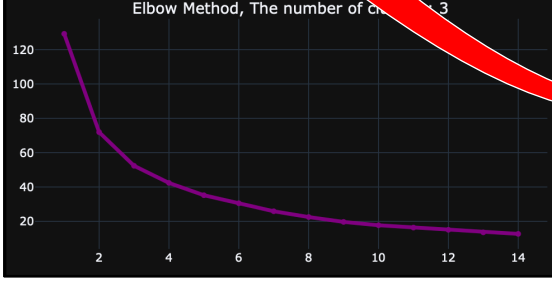
24

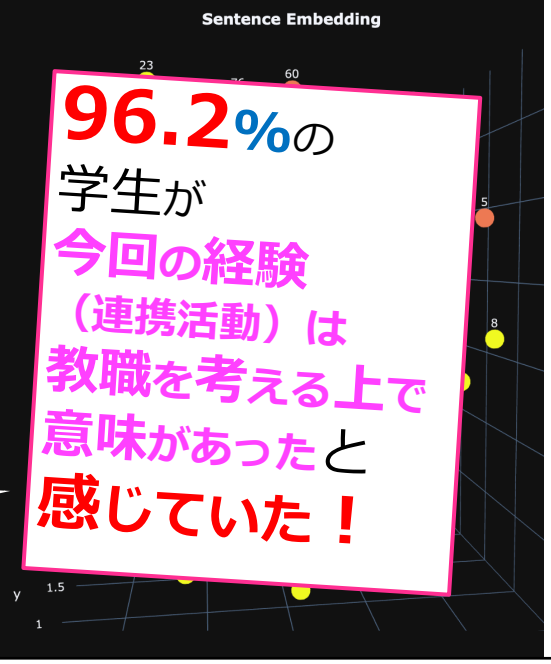
Ⅱ-3.
2024年度の詳細

25

今回の経験は、教職を考える上でとても意味があったと思いますか



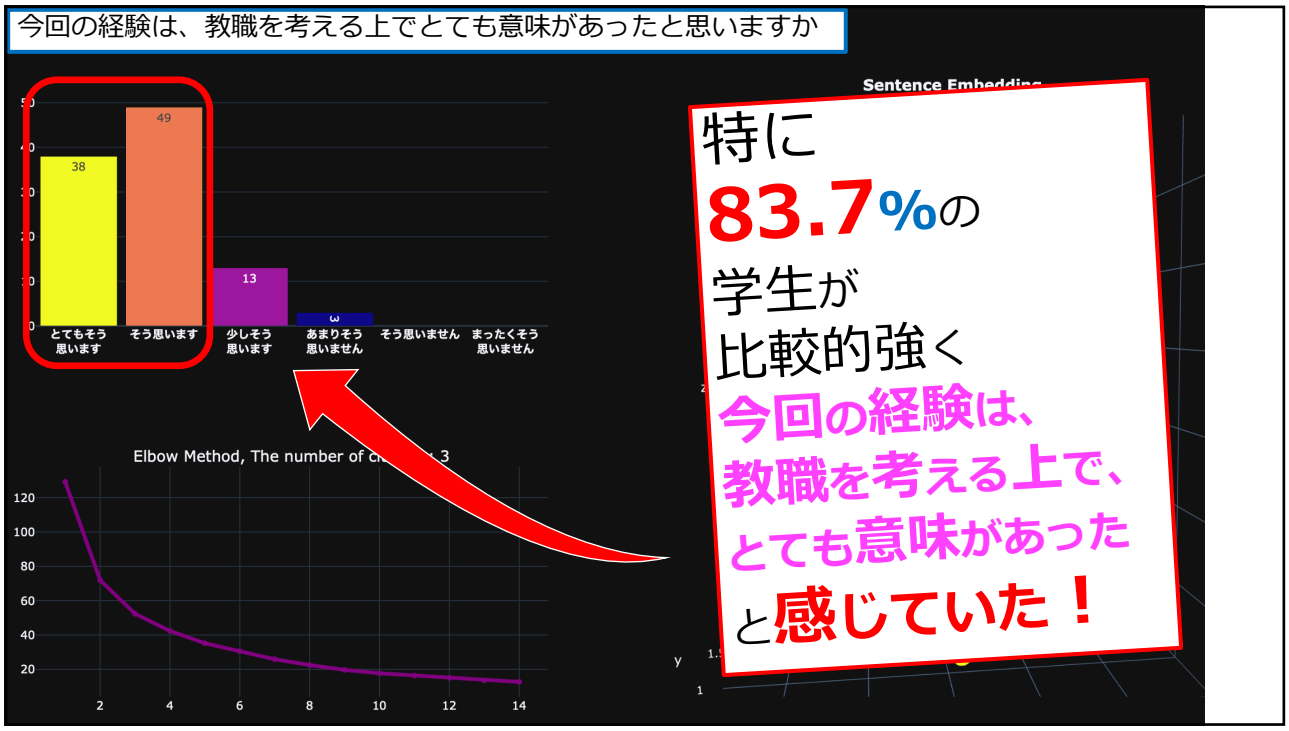




96.2%の学生が**今回の経験（連携活動）は教職を考える上で意味があった**と**感じていた！**

26

今回の経験は、教職を考える上でとても意味があったと思いますか



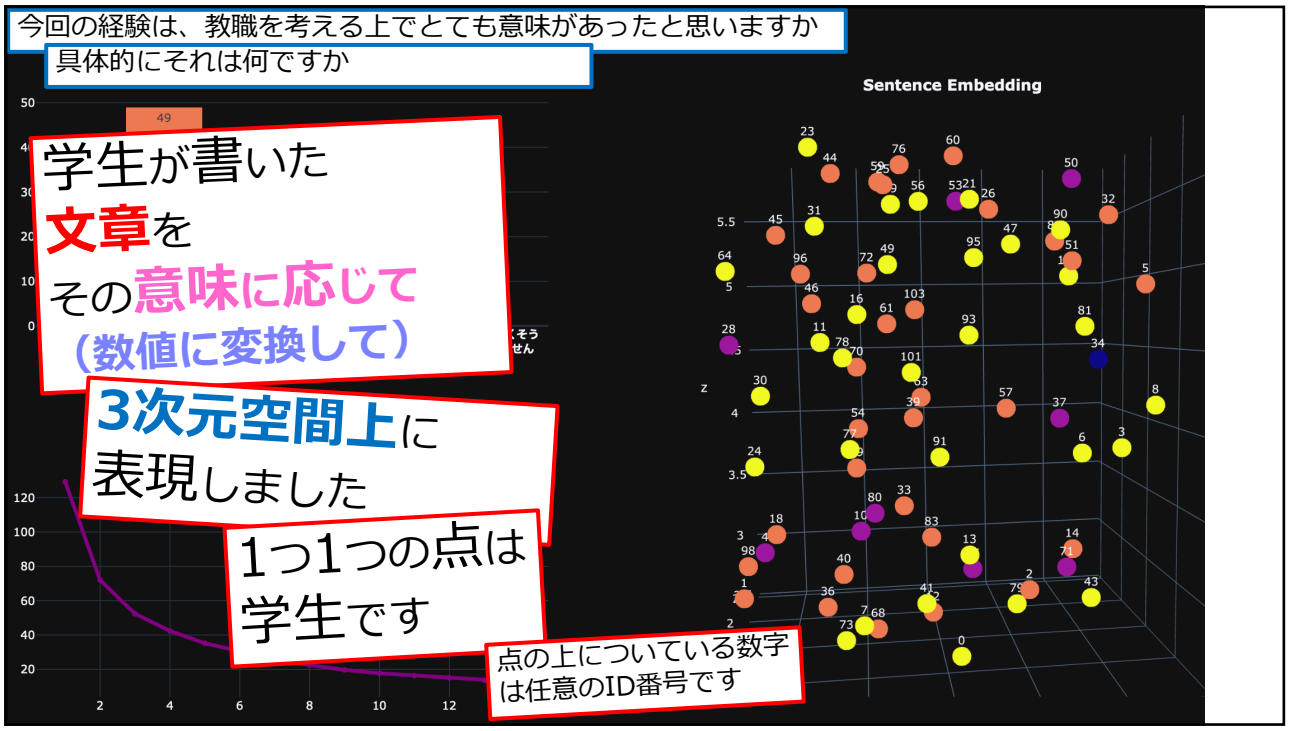
特に
83.7%の
学生が
比較的強く
今回の経験は、
教職を考える上で、
とても意味があった
と**感じていた！**

27

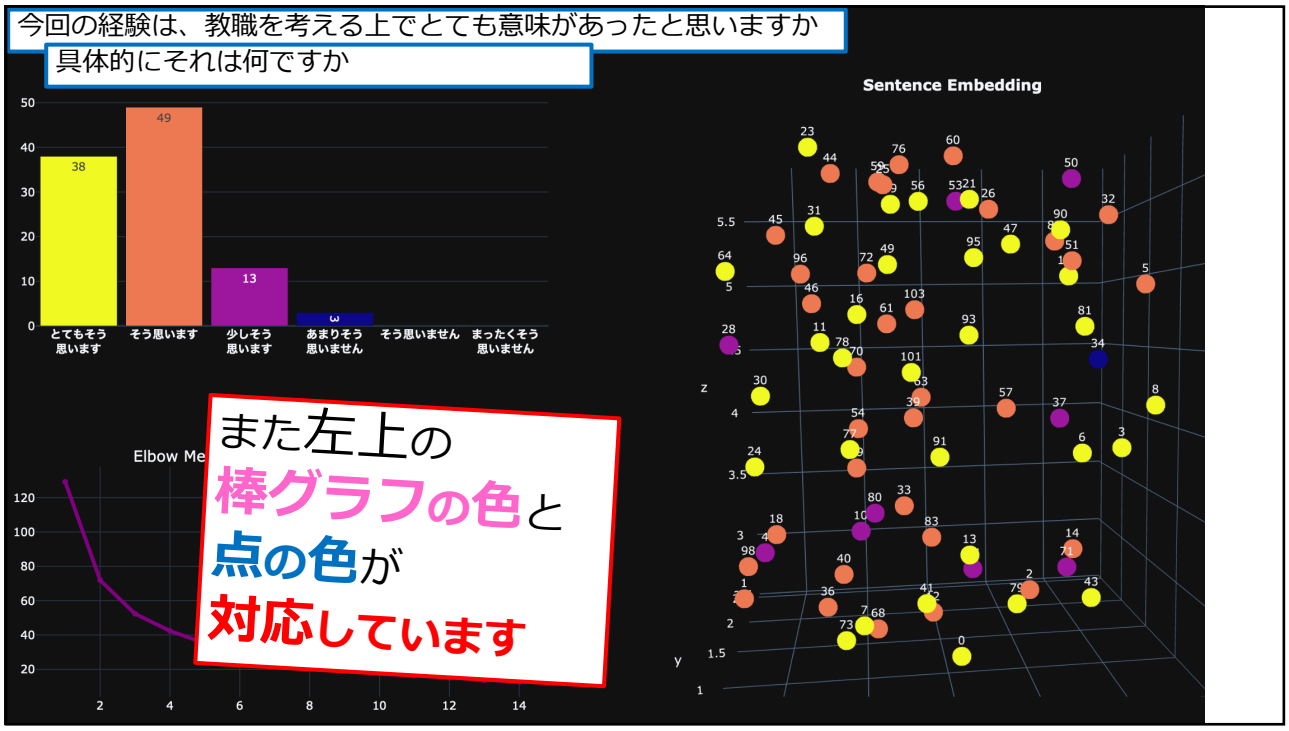
今回の経験は
教職を考える上で
とても意味があった
と回答した際

具体的に
それは
何なのか
について
書いてもらったところ

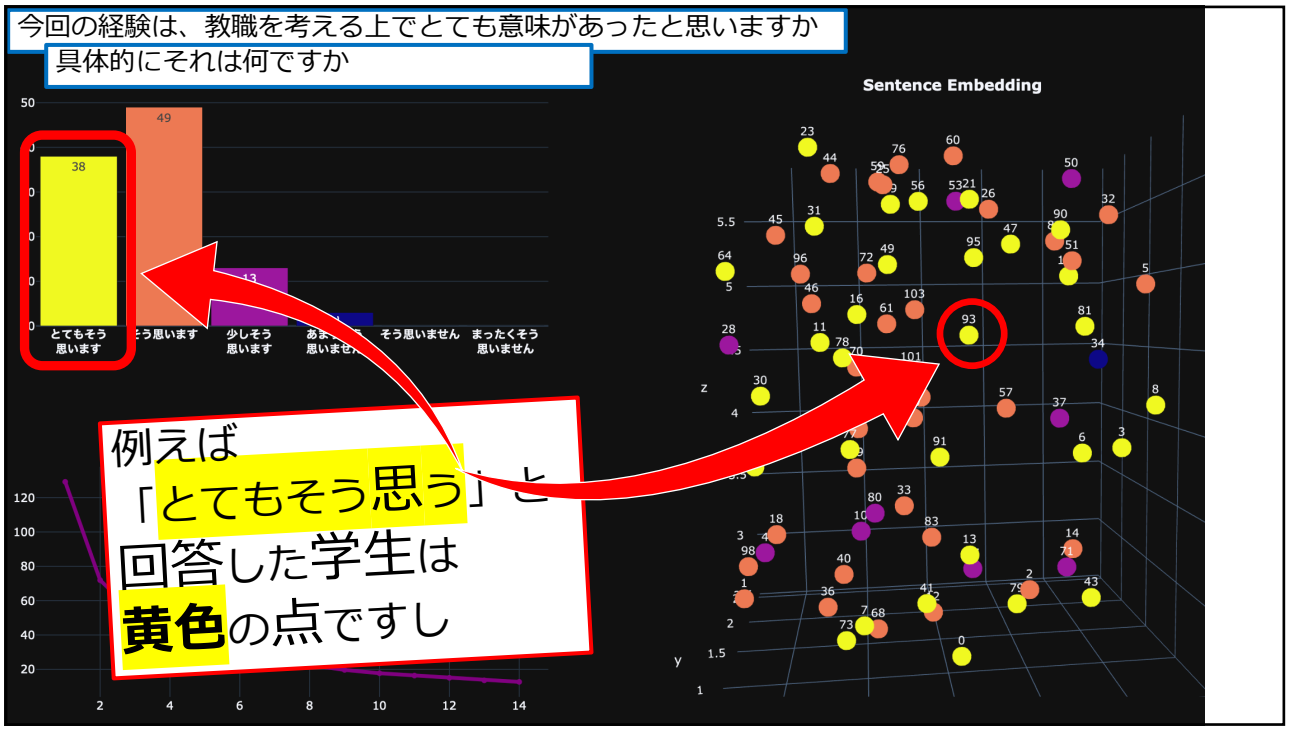
28


今回の経験は、教職を考える上でとても意味があったと思いますか
具体的にそれは何ですか
学生が書いた
文章を
その意味に応じて
（数値に変換して）
3次元空間上に
表現しました
1つ1つの点は
学生です
点の上についている数字
は任意のID番号です
Sentence Embedding

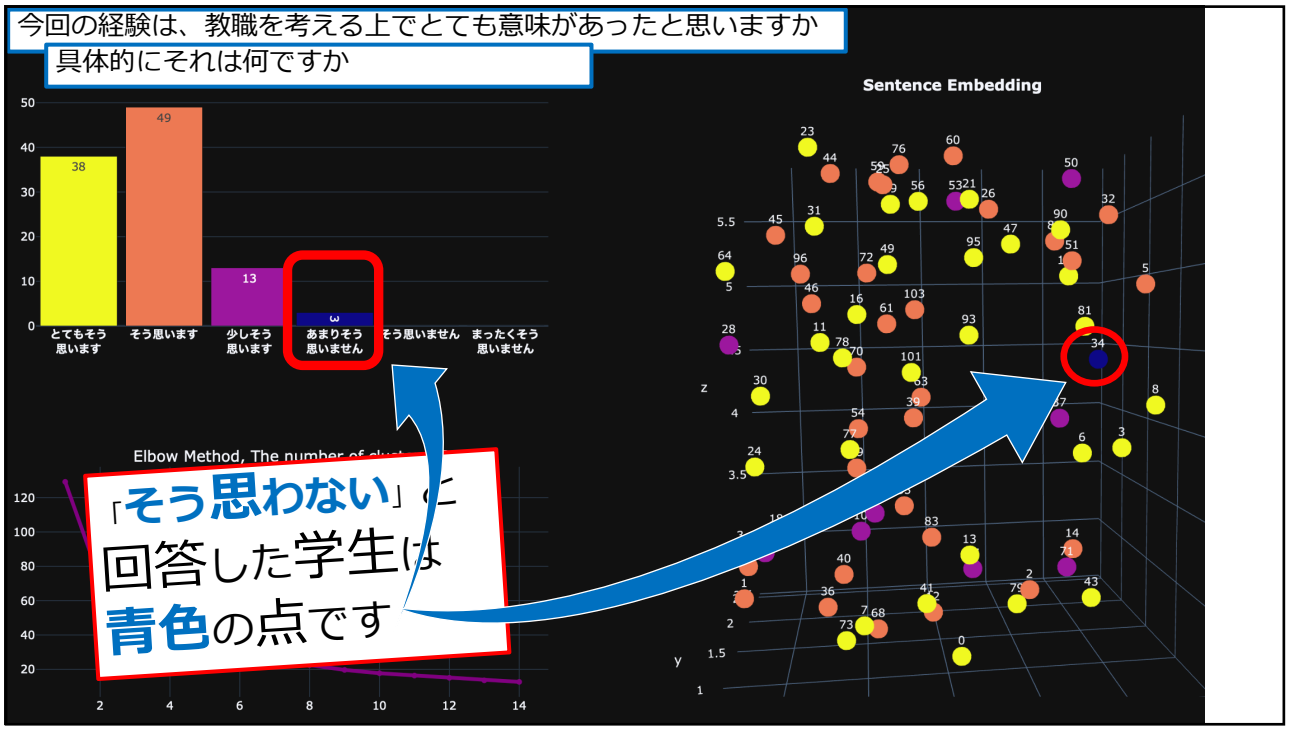
29


今回の経験は、教職を考える上でとても意味があったと思いますか
具体的にそれは何ですか
とてもそう思います
そう思います
少しそう思います
あまりそう思いません
そう思いません
まったくそう思いません
また左上の
棒グラフの色と
点の色が
対応しています
Sentence Embedding

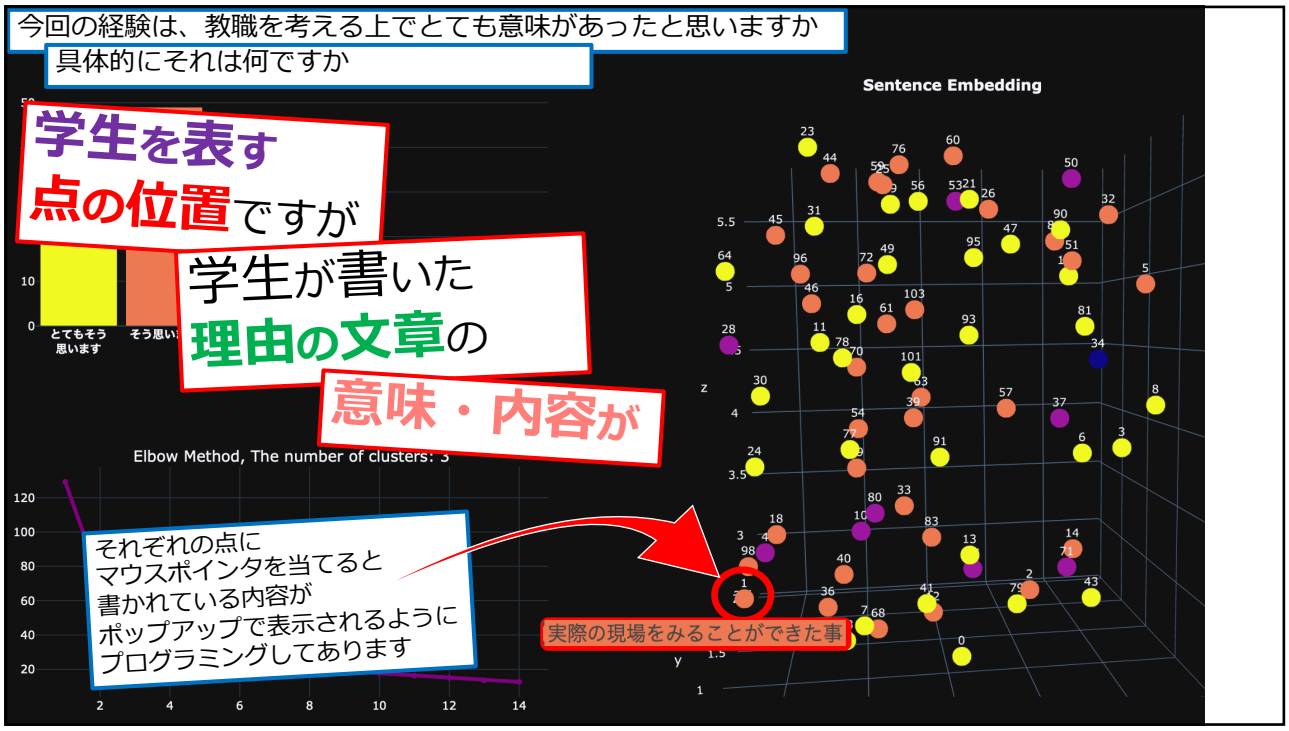
30


今回の経験は、教職を考える上でとても意味があったと思いますか
具体的にそれは何ですか
Sentence Embedding
例えば
「とてもそう思う」と
回答した学生は
黄色の点ですし

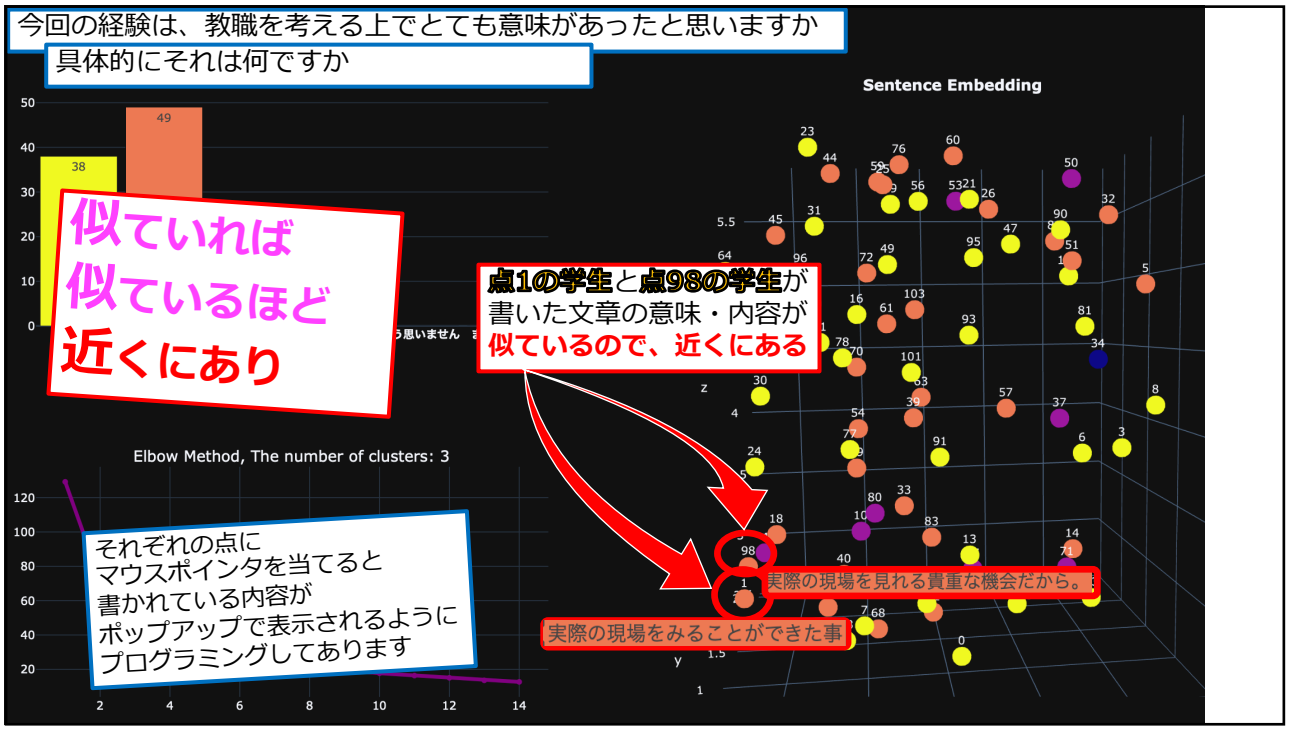
31


今回の経験は、教職を考える上でとても意味があったと思いますか
具体的にそれは何ですか
Sentence Embedding
「そう思わない」と
回答した学生は
青色の点です

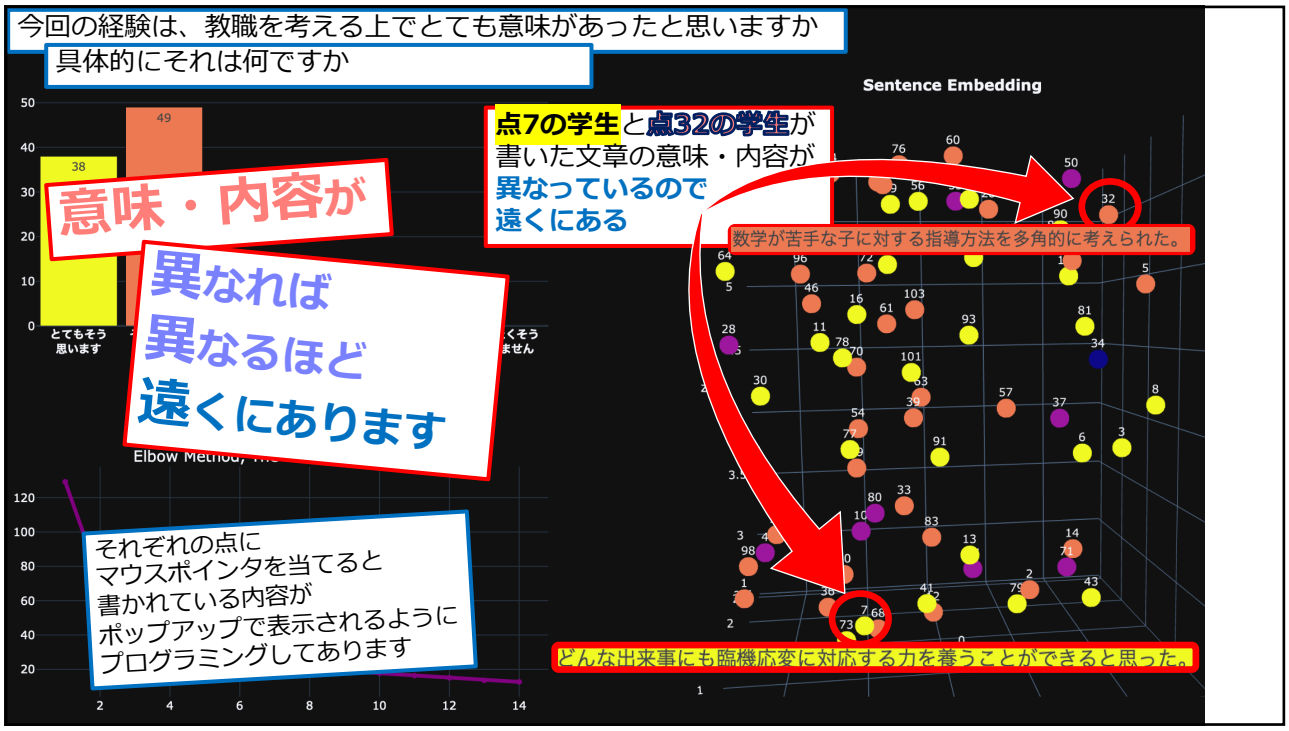
32


今回の経験は、教職を考える上でとても意味があったと思いますか
具体的にそれは何ですか
学生を表す
点の位置ですが
学生が書いた
理由の文章の
意味・内容が
Sentence Embedding
Elbow Method, The number of clusters: 3
それぞれの点に
マウスポインタを当てると
書かれている内容が
ポップアップで表示されるように
プログラミングしてあります
実際の現場をみることができた事

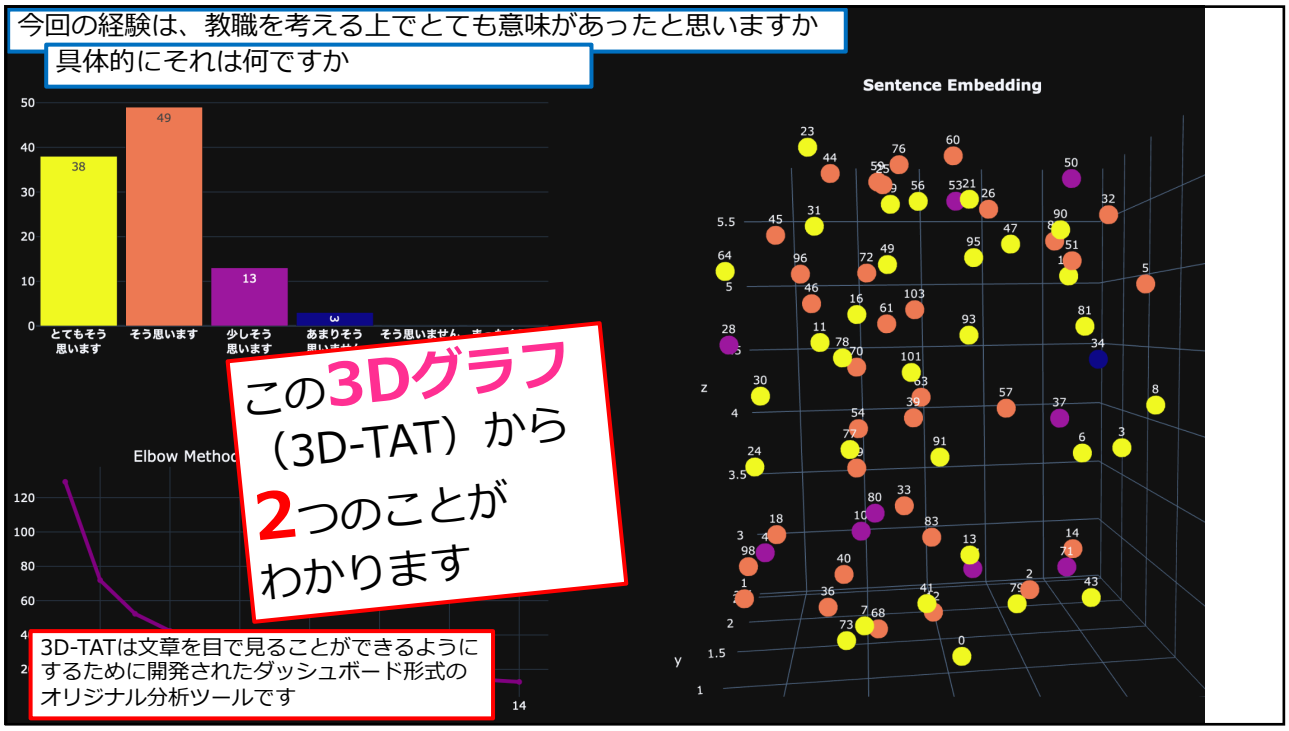
33


今回の経験は、教職を考える上でとても意味があったと思いますか
具体的にそれは何ですか
Sentence Embedding
似ていれば
似ているほど
近くにあり
点1の学生と点98の学生が
書いた文章の意味・内容が
似ているので、近くにある
Elbow Method, The number of clusters: 3
それぞれの点に
マウスポインタを当てると
書かれている内容が
ポップアップで表示されるように
プログラミングしてあります
実際の現場を見れる貴重な機会だから。
実際の現場をみることができた事

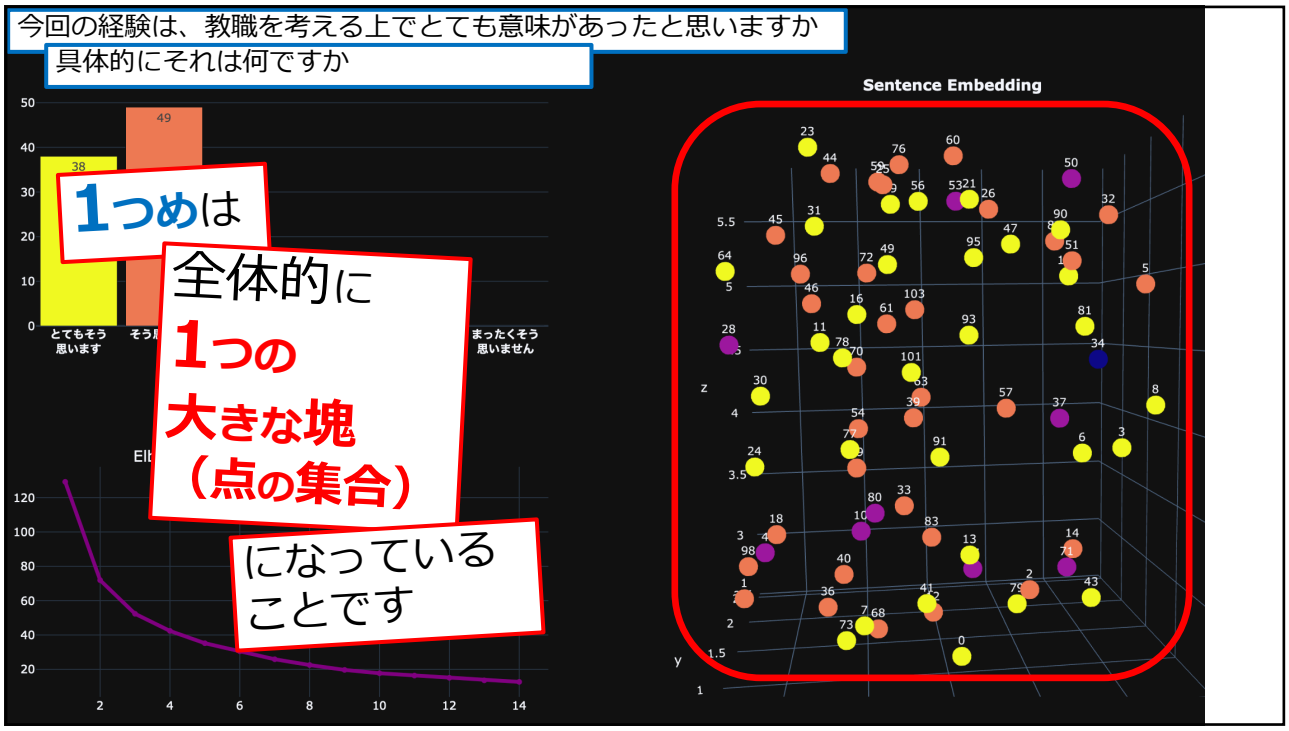
34


今回の経験は、教職を考える上でとても意味があったと思いますか
具体的にそれは何ですか
Sentence Embedding
点7の学生と点32の学生が
書いた文章の意味・内容が
異なっているので
遠くにある
意味・内容が
異なれば
異なるほど
遠くにあります
数学が苦手な子に対する指導方法を多角的に考えられた。
どんな出来事にも臨機応変に対応する力を養うことができると思った。
それぞれの点に
マウスポインタを当てると
書かれている内容が
ポップアップで表示されるように
プログラミングしてあります

35


今回の経験は、教職を考える上でとても意味があったと思いますか
具体的にそれは何ですか
Sentence Embedding
とてもそう思います
そう思います
少しそう思います
この3Dグラフ
（3D-TAT）から
2つのことが
わかります
3D-TATは文章を目で見ることができるように
するために開発されたダッシュボード形式の
オリジナル分析ツールです

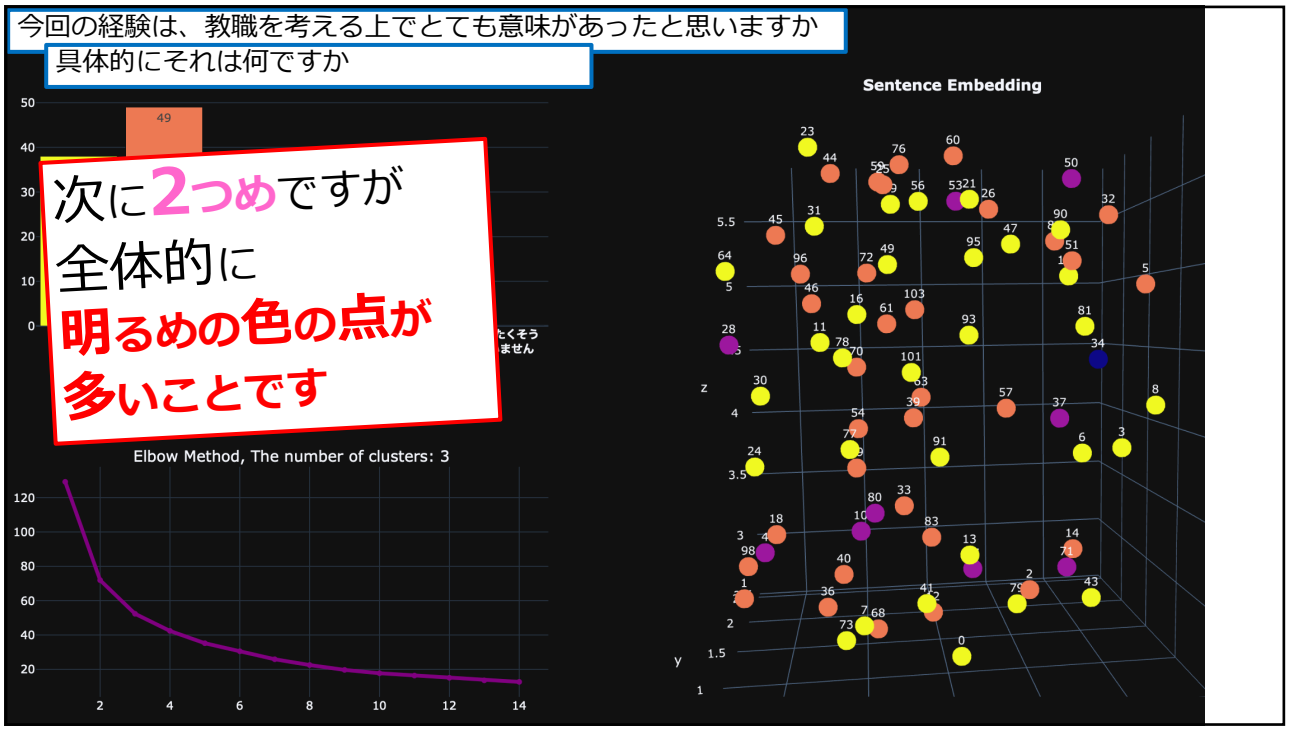
36


今回の経験は、教職を考える上でとても意味があったと思いますか
具体的にそれは何ですか
1つめは
全体的に
1つの
大きな塊
（点の集合）
になっている
ことです
Sentence Embedding

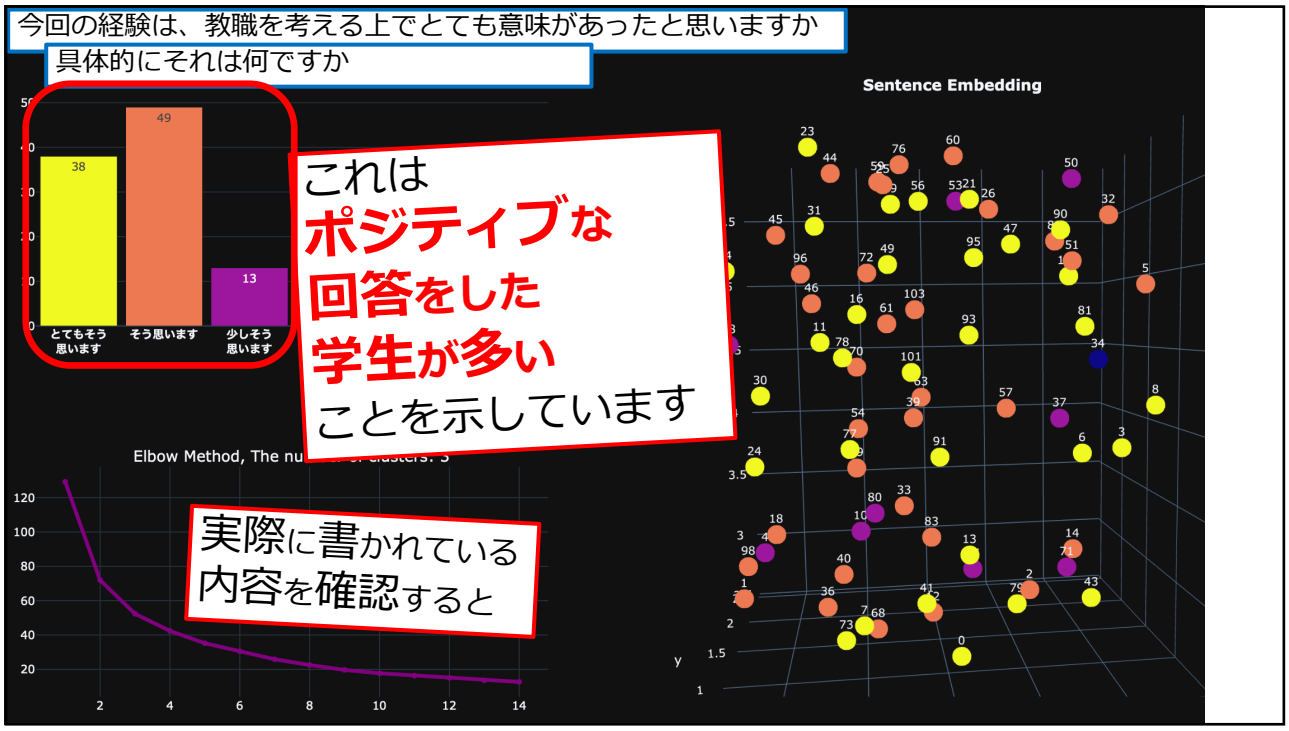
37

今回の経験は、教職を考える上でとても意味があったと思いますか
このことは
書かれている
生徒の文章が
多少異なって
いたとしても
全体的には
おおよそ同じような
意味・内容で
あることを
示しています
Sentence Embedding

38


今回の経験は、教職を考える上でとても意味があったと思いますか
具体的にそれは何ですか
次に2つめですが
全体的に
明るめの色の点が
多いことです
Sentence Embedding
Elbow Method, The number of clusters: 3

39

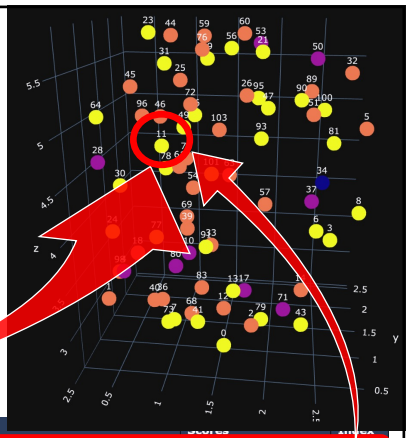

今回の経験は、教職を考える上でとても意味があったと思いますか
具体的にそれは何ですか
38
49
13
とてもそう思います
そう思います
少しそう思います
これは
ポジティブな
回答をした
学生が多い
ことを示しています
実際に書かれている
内容を確認すると
Sentence Embedding

40

今回の経験は、教職を考える上でとても意味があったと思いますか

具体的にそれは何ですか

この質問に答えた
最も適切な回答を
人が個人的な主観で
選ぶのではなく
AIに選ばせました！



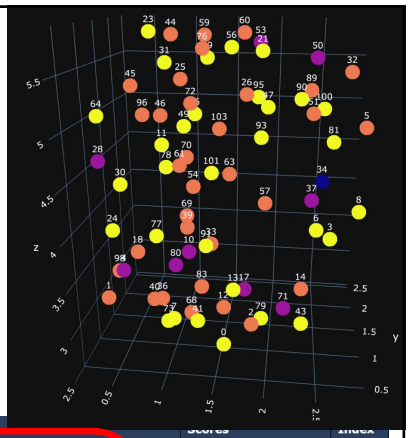
Text	Score	Index
経験することでより具体的に教職について考えられること。	0.8262204527854919	11
自分がどのような教員になりたいのかという疑問に答えを出すことへの参考になった	0.8205536007881165	26
発問にはどのような意図があるのか、子どもたちがつまづきを感じているのはどんな時なのかを知ることができたことは教職を考える上で意味があったと思う。	0.7857496738433838	89
教えるスキルなどの向上	0.7755082249641418	70
講義や調べることだけではなくて実際に子供たちと触れ合ったり、現代の先生方がどのように授業を展開しているかなどを自分の目で見て学べたのでそこに意味があったと思います。	0.7361637353897095	29
先生の仕事を少し知れた	0.7215182781219482	101
先生の授業における理解を手助けする教材の工夫などを知れてよかった。	0.7052585482597351	31
教員の現状について現場から知ることができた。授業の計画や指導方法等をどう組み立てたらよいかの参考になったと思う。	0.7038333415985107	72
実際の教育現場を見れる経験はやはりとても貴重で、子どもたちに勉強を教えるだけでも人によって理解の仕方や、伝わり方が違うので、そこを考える練習になりました。	0.6942054033279419	21
実際の教育現場を訪れて、今の教育状況を理解することが出来る。	0.6923864483833313	30

41

今回の経験は、教職を考える上でとても意味があったと思いますか

具体的にそれは何ですか

基本的に
実際に経験することで
学校について知ることができた
と回答をしている学生が
多いことがわかります



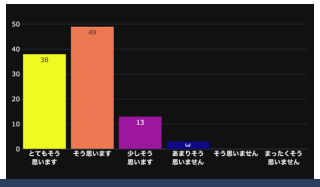
Text	Score	Index
経験することでより具体的に教職について考えられること。	0.8262204527854919	11
自分がどのような教員になりたいのかという疑問に答えを出すことへの参考になった	0.8205536007881165	26
発問にはどのような意図があるのか、子どもたちがつまづきを感じているのはどんな時なのかを知ることができたことは教職を考える上で意味があったと思う。	0.7857496738433838	89
教えるスキルなどの向上	0.7755082249641418	70
講義や調べることだけではなくて実際に子供たちと触れ合ったり、現代の先生方がどのように授業を展開しているかなどを自分の目で見て学べたのでそこに意味があったと思います。	0.7361637353897095	29
先生の仕事を少し知れた	0.7215182781219482	101
先生の授業における理解を手助けする教材の工夫などを知れてよかった。	0.7052585482597351	31
教員の現状について現場から知ることができた。授業の計画や指導方法等をどう組み立てたらよいかの参考になったと思う。	0.7038333415985107	72
実際の教育現場を見れる経験はやはりとても貴重で、子どもたちに勉強を教えるだけでも人によって理解の仕方や、伝わり方が違うので、そこを考える練習になりました。	0.6942054033279419	21
実際の教育現場を訪れて、今の教育状況を理解することが出来る。	0.6923864483833313	30

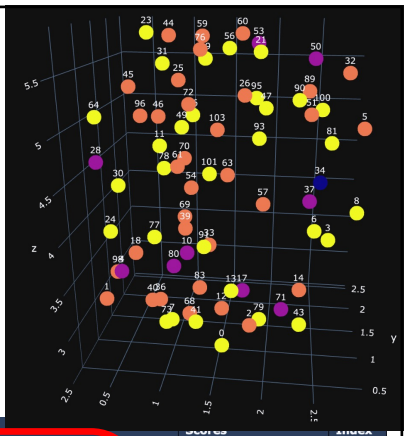
42

今回の経験は、教職を考える上でとても意味があったと思いますか

それゆえ　　ですか

ポジティブな
記述が多い
こともわかりました





経験することでより具体的に教職について考えられること。	0.8262204527854919	11
自分がどのような教員になりたいのかという疑問に答えを出すことへの参考になった	0.8205536007881165	26
発問にはどのような意図があるのか、子どもたちがつまづきを感じているのはどんな時なのかを知ることができたことは教職を考える上で意味があったと思う。	0.7857496738433838	89
教えるスキルなどの向上	0.7755082249641418	70
講義や調べることだけではなくて実際に子供たちと触れ合ったり、現代の先生方がどのように授業を展開しているかなどを自分の目で見て学べたのでそこに意味があったと思います。	0.7361637353897095	29
先生の仕事を少し知れた	0.7215182781219482	101
先生の授業における理解を手助けする教材の工夫などを知れてよかった。	0.7052585482597351	31
教員の現状について現場から知ることができた。授業の計画や指導方法等をどう組み立てたらよいかの参考になったと思う。	0.7038333415985107	72
実際の教育現場を見れる経験はやはりとても貴重で、子どもたちに勉強を教えるだけでも人によって理解の仕方や、伝わり方が違うので、そこを考える練習になりました。	0.6942054033279419	21
実際の教育現場を訪れて、今の教育状況を理解することが出来る。	0.6923864483833313	30

43

ほとんどの学生は
今回の経験
（連携活動）は、
教職を考える上で、
比較的強く
意味があったと
感じていて

実際に経験することで
より具体的に
教職について
考えられるようになった

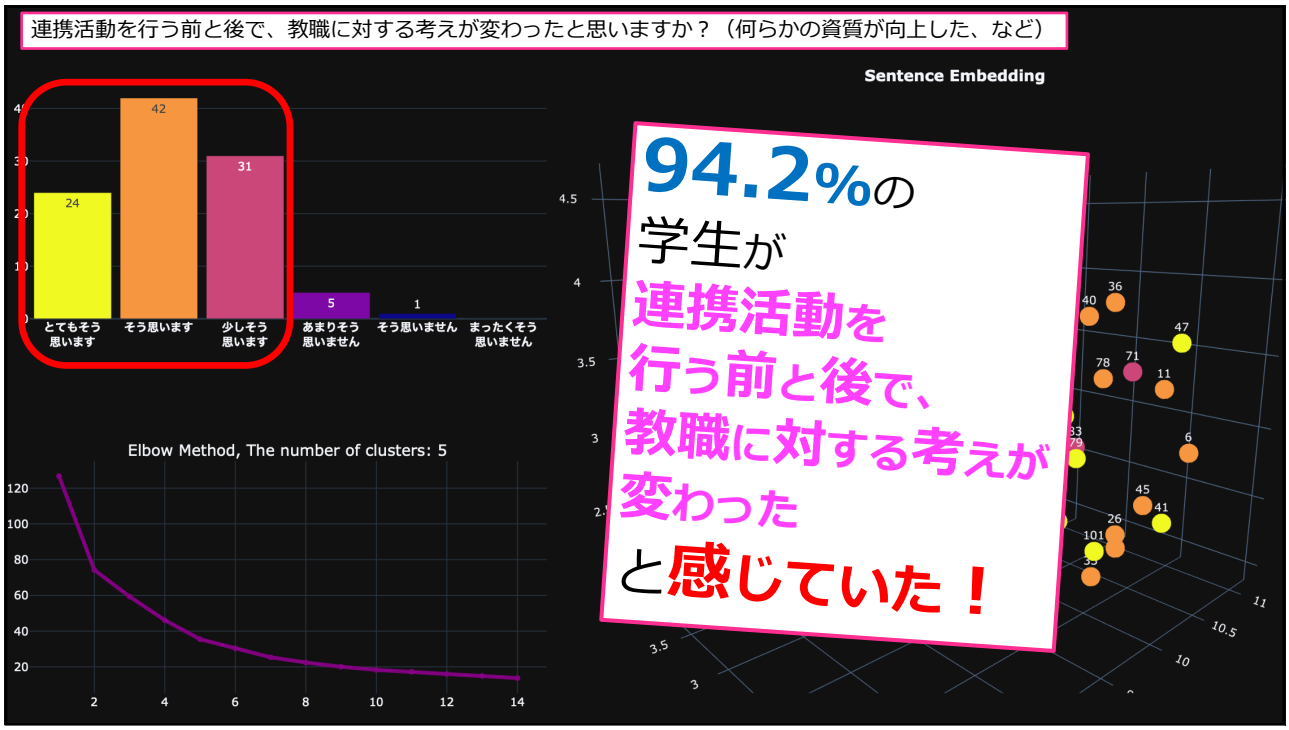
と実感していることが
わかった！

44

次に、
連携活動を
行う前と後で
教職に対する考えが
変わったか

については

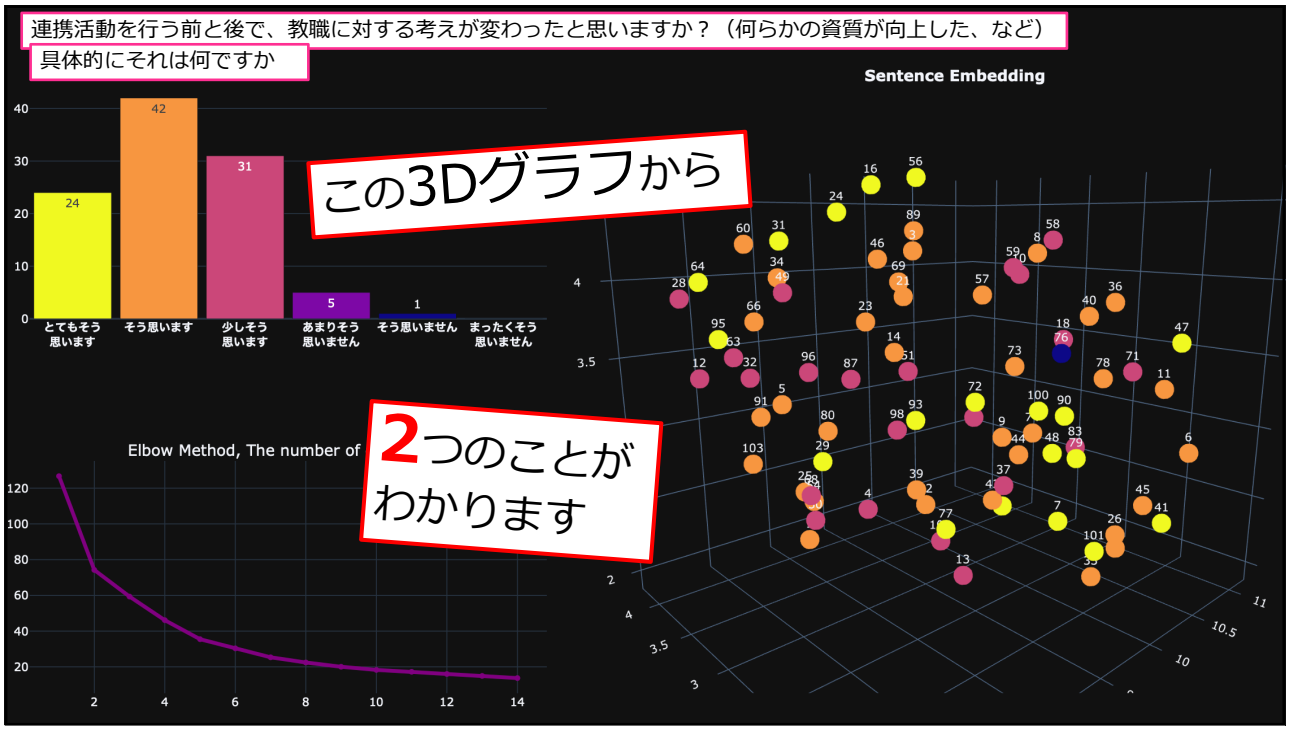
45



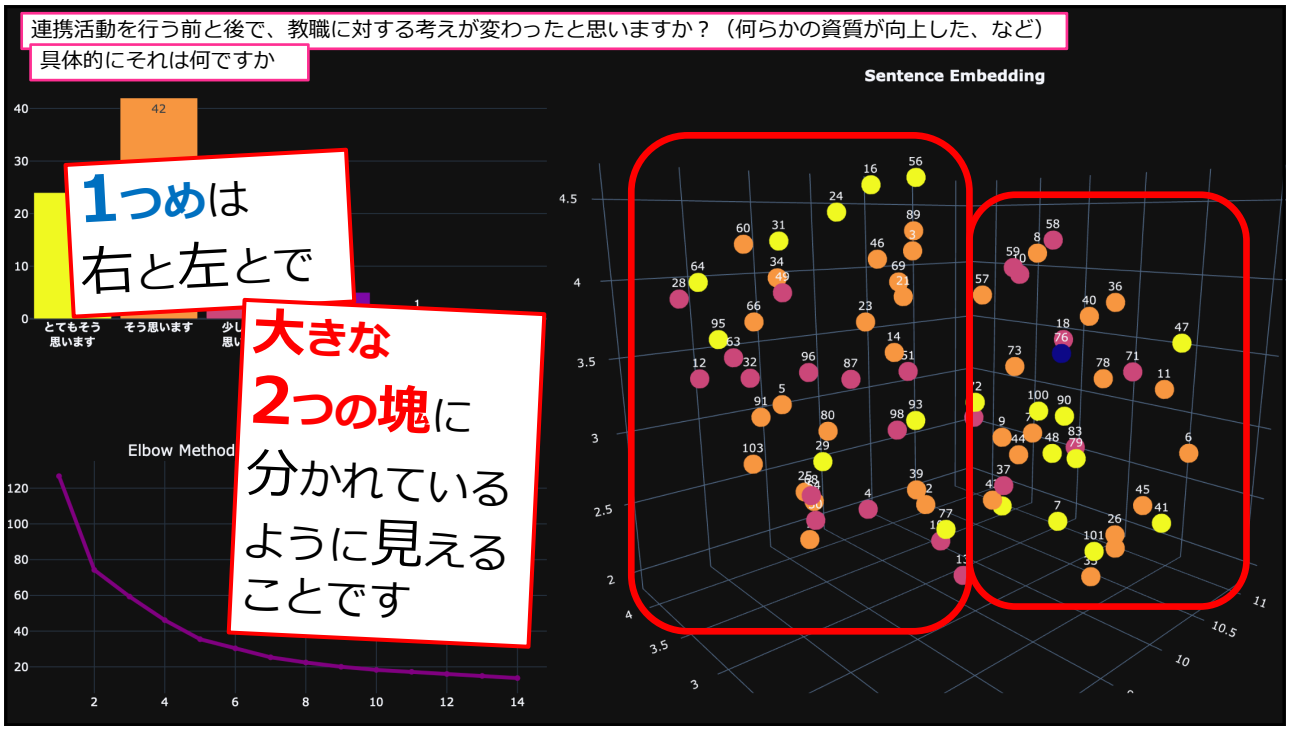
46

連携活動を
行う前と後で
教職に対する考えが
変わった
と回答した際　具体的に
それは
何なのか
について
書いてもらったところ

47



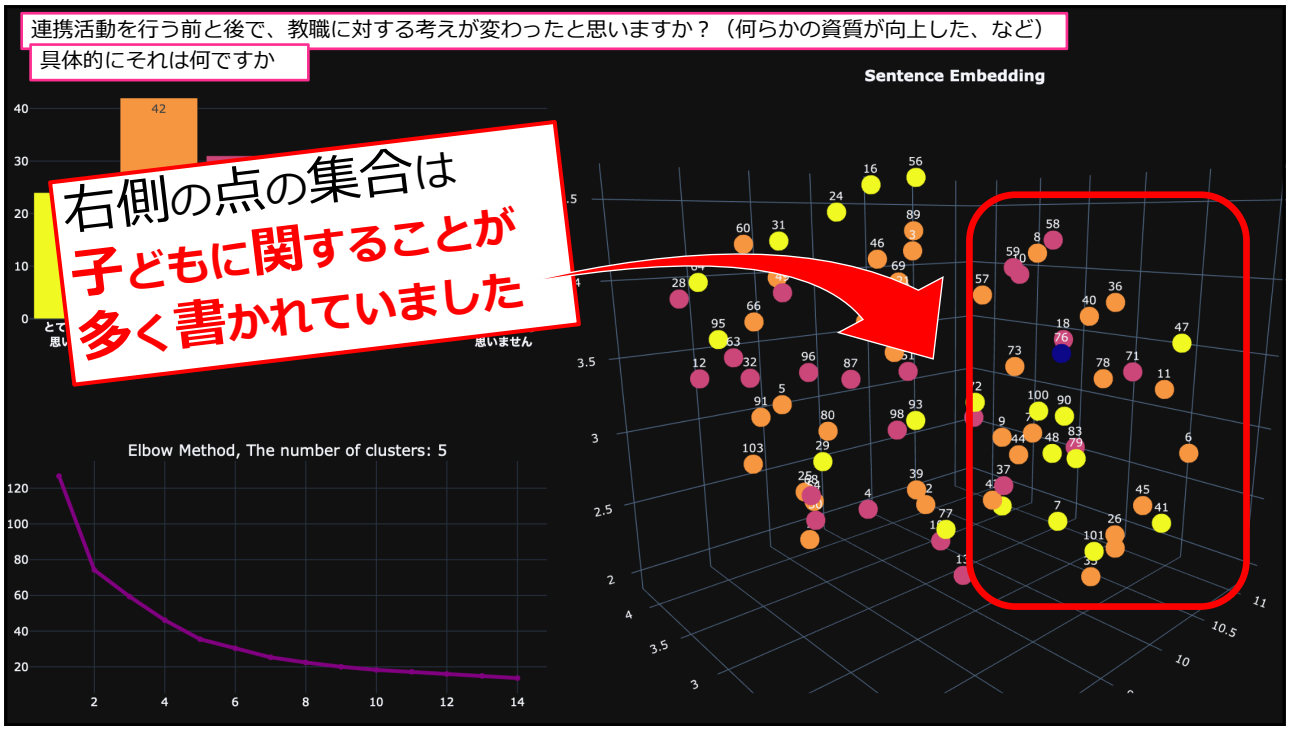
48


連携活動を行う前と後で、教職に対する考えが変わったと思いますか？（何らかの資質が向上した、など）
具体的にそれは何ですか
Sentence Embedding
Elbow Method
1つめは
右と左とで
大きな
2つの塊に
分かれている
ように見える
ことです

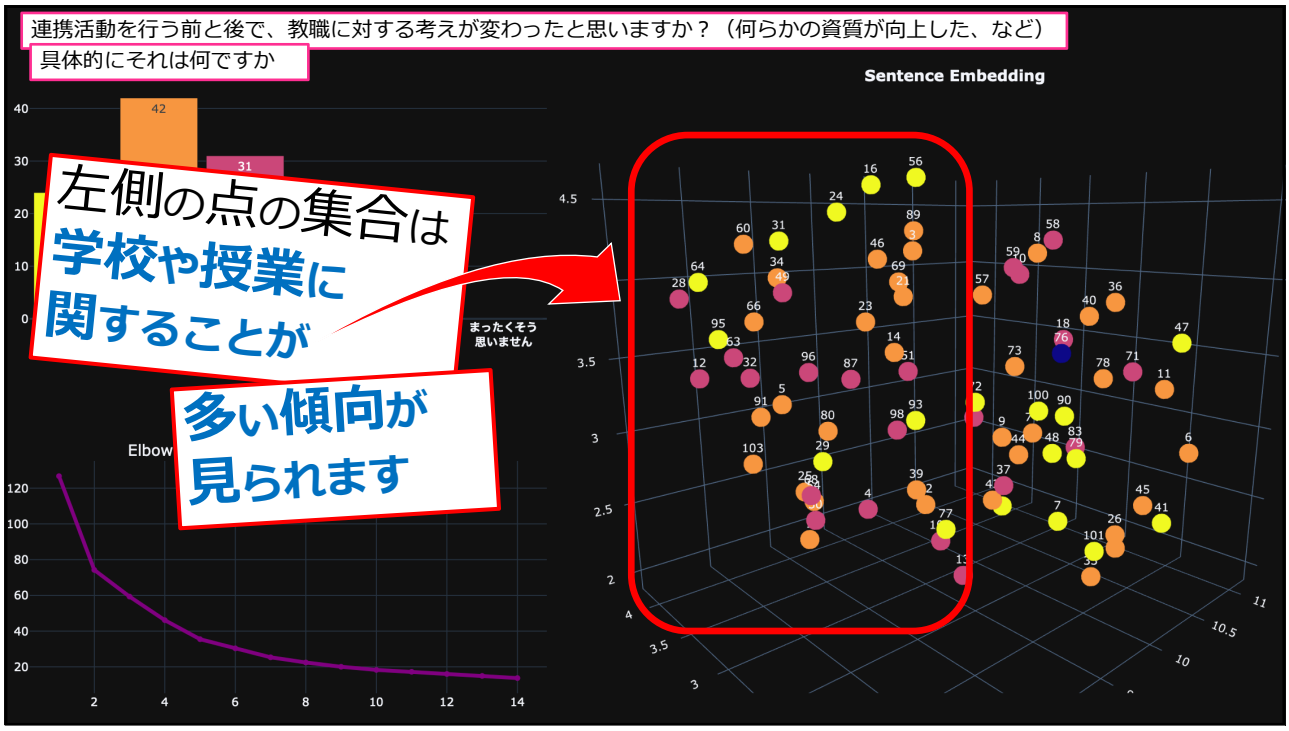
49

連携活動を行う前と後で、教職に対する考えが変わったと思いますか？（何らかの資質が向上した、など）
具体的にそれは何ですか
Sentence Embedding
Elbow Method
これは
書かれている
学生の
文章の内容が
おおよそ2つに
分かれている
ことを
視覚的に
示しています

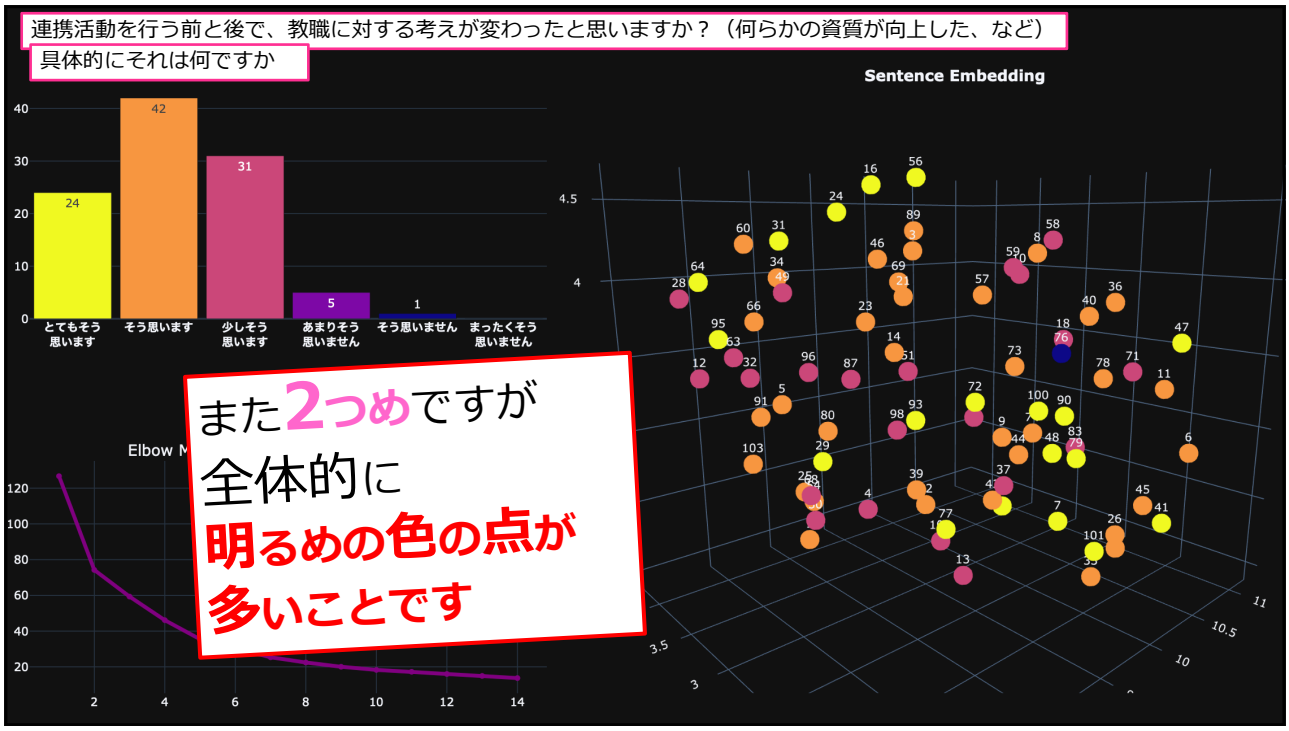
50


連携活動を行う前と後で、教職に対する考えが変わったと思いますか？（何らかの資質が向上した、など）
具体的にそれは何ですか
Sentence Embedding
右側の点の集合は
子どもに関することが
多く書かれていました
Elbow Method, The number of clusters: 5

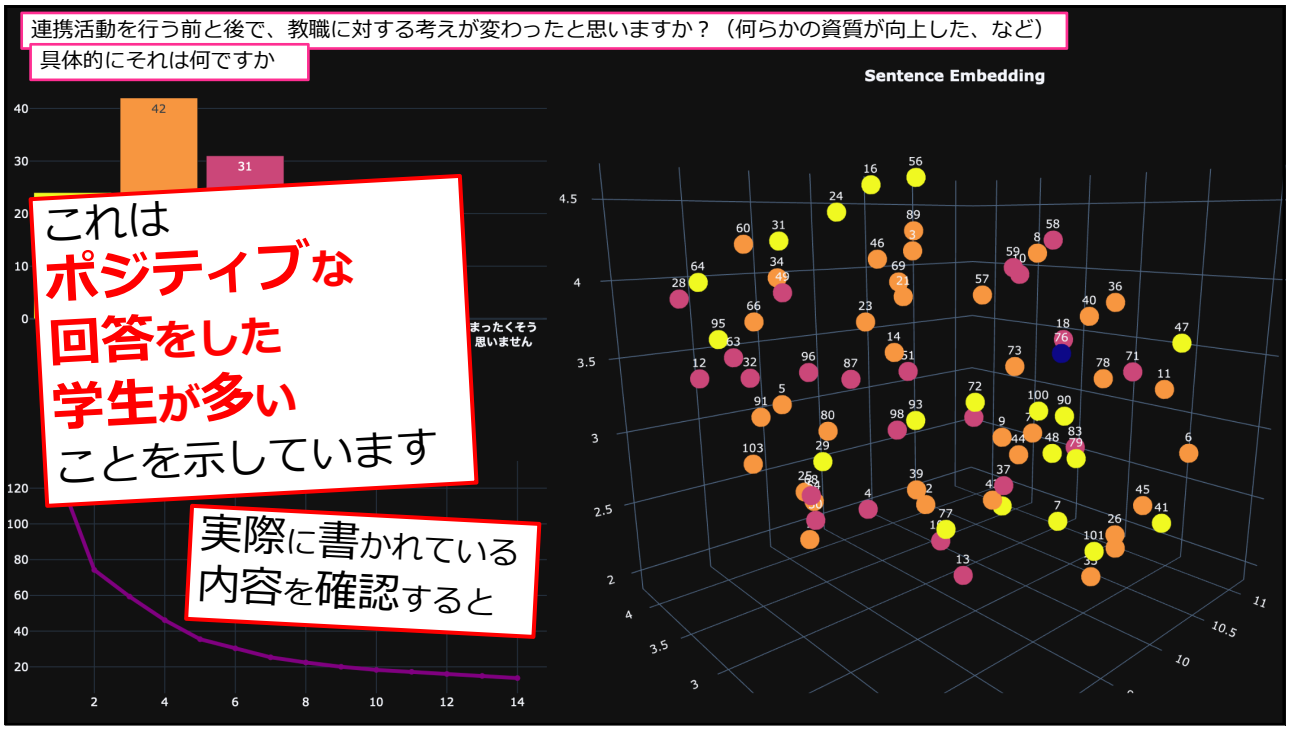
51


連携活動を行う前と後で、教職に対する考えが変わったと思いますか？（何らかの資質が向上した、など）
具体的にそれは何ですか
Sentence Embedding
左側の点の集合は
学校や授業に
関することが
多い傾向が
見られます

52


連携活動を行う前と後で、教職に対する考えが変わったと思いますか？（何らかの資質が向上した、など）
具体的にそれは何ですか
Sentence Embedding
とてもそう思います
そう思います
少しそう思います
あまりそう思いません
そう思いません
まったくそう思いません
また2つめですが
全体的に
明るめの色の点が
多いことです

53

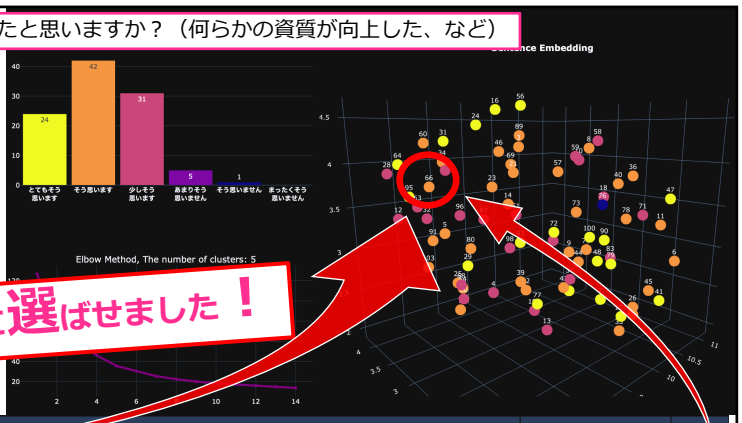

連携活動を行う前と後で、教職に対する考えが変わったと思いますか？（何らかの資質が向上した、など）
具体的にそれは何ですか
Sentence Embedding
これは
ポジティブな
回答をした
学生が多い
ことを示しています
実際に書かれている
内容を確認すると

54

連携活動を行う前と後で、教職に対する考えが変わったと思いますか？（何らかの資質が向上した、など）

具体的にそれは何ですか

この質問に答えた
最も適切な回答を
人が個人的な主観で
選ぶのではなく
AIに選ばせました！



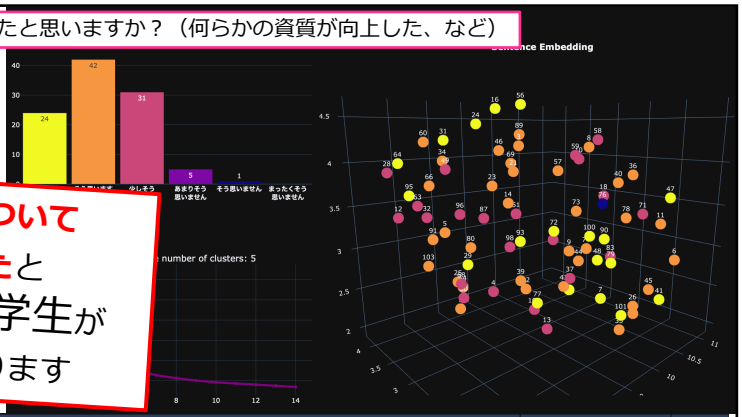
Text	Scores	Index
実習についてどのように指導すればよいか考えるようになった。	0.695018827915191	66
授業者視点での授業作りの捉え方。	0.6605429649353027	32
実際に生徒と関わることで座学の授業とは違う経験ができたから。	0.6433044075965881	50
授業への向き合い方	0.6416182518005371	12
校種別、学年別による指導の仕方の違いを体感した	0.6150425672531128	68
授業の仕方や子供へのアプローチの仕方など、自分に足りないものが明確になった。	0.5986237525939941	91
授業の進め方子どもとの関わり方について学びました。	0.5858877897262573	87
教師になりたいという気持ちが上がった。子供と関わる中で課題となる点が見えてきた。	0.5850207209587097	49
生徒の立場でなく教員になるという視点で教員の仕事を見ることが出来たので、教員について考える切きっかけになった。	0.5825913548469543	60
教える上で教員がどのように時間管理を行っているか	0.5823885202407837	28

55

連携活動を行う前と後で、教職に対する考えが変わったと思いますか？（何らかの資質が向上した、など）

具体的にそれは何ですか

基本的に
実際に
実習や授業について
知ることができたと
回答をしている学生が
多いことがわかります



Text	Scores	Index
実習についてどのように指導すればよいか考えるようになった。	0.6950188279151917	66
授業者視点での授業作りの捉え方。	0.6605429649353027	32
実際に生徒と関わることで座学の授業とは違う経験ができたから。	0.6433044075965881	50
授業への向き合い方	0.6416182518005371	12
校種別、学年別による指導の仕方の違いを体感した	0.6150425672531128	68
授業の仕方や子供へのアプローチの仕方など、自分に足りないものが明確になった。	0.5986237525939941	91
授業の進め方子どもとの関わり方について学びました。	0.5858877897262573	87
教師になりたいという気持ちが上がった。子供と関わる中で課題となる点が見えてきた。	0.5850207209587097	49
生徒の立場でなく教員になるという視点で教員の仕事を見ることが出来たので、教員について考える切きっかけになった。	0.5825913548469543	60
教える上で教員がどのように時間管理を行っているか	0.5823885202407837	28

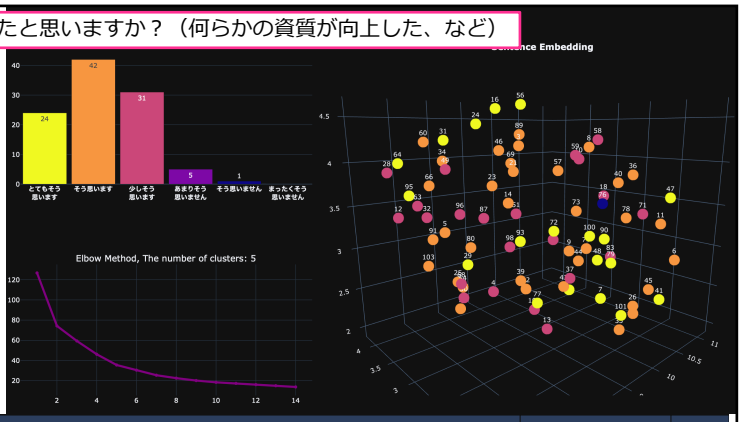
56

連携活動を行う前と後で、教職に対する考えが変わったと思いますか？（何らかの資質が向上した、など）

具体的にそれは何ですか

それゆえ

ポジティブな記述が多い こともわかりました



Text	Scores	Index
実習についてどのように指導すればよいか考えるようになった。	0.6950188279151917	66
授業者視点での授業作りの捉え方。	0.6605429649353027	32
実際に生徒と関わることで座学の授業とは違う経験ができたから。	0.6433044075965881	50
授業への向き合い方	0.6416182518005371	12
校種別、学年別による指導の仕方の違いを体感した	0.6150425672531128	68
授業の仕方や子供へのアプローチの仕方など、自分に足りないものが明確になった。	0.5986237525939941	91
授業の進め方子どもとの関わり方について学びました。	0.5858877897262573	87
教師になりたいという気持ちが上がった。子供と関わる中で課題となる点が見えてきた。	0.5850207209587097	49
生徒の立場でなく教員になるという視点で教員の仕事を見ることが出来たので、教員について考える切きっかけになった。	0.5825913548469543	60
教える上で教員がどのように時間管理を行っているか	0.5823885202407837	28

57

ほとんどの学生は
教職に対する考えが変わったと
考えていて

実際に実習や授業について知ることができた

と回答していることが
わかった！

58

Ⅱ-4.

次年度以降の
取り組みに
向けて

59

連携活動は　**教員志望**の**意識づけ**・
動機づけの観点から

成果があったことが
確認できた

ゆえに
前年度に引き続き
このまま継続して
行っていく　ことが重要であると
思われます。

60

令和６年度三重大学教育学部学校連携推進委員会

瀬戸　美奈子　（学校教育講座）委員長
金子　淳　（英語教育講座）副委員長
守田　庸一　（国語教育講座）運営委員
小畑　真梨子　（音楽教育講座）
久保田　重幸　（教育学部）
山田　志穂　（連携事務）

令和６年度　三重大学教育学部学校連携活動報告書

2024 年 3 月発行
編集：三重大学教育学部　学校連携推進委員会
発行：三重大学教育学部
〒514-8507　三重県津市栗真町屋町 1577